I·O DATA

LA-98シリーズ

PC-9800シリーズ汎用拡張スロット用Ethernet LANアダプタ

取扱説明書

E-03C

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、株式会社アイ・オー・データ機器 PLANTコールセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易管理法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当します。
したがって、国外に持ち出す場合には、必ず日本国政府の輸出許可申請など必要な手続きをお取りください。
6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、1部だけ複写できるものとします。（ただし5ボードセット品については、5ユーザーまでの使用が可能です。）
7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is only suitable for use in Japan. We shall have no liability for any damages arising from the use or inability to use this product in other countries. We neither provide any technical support and/or after-service for the use of this product abroad.)

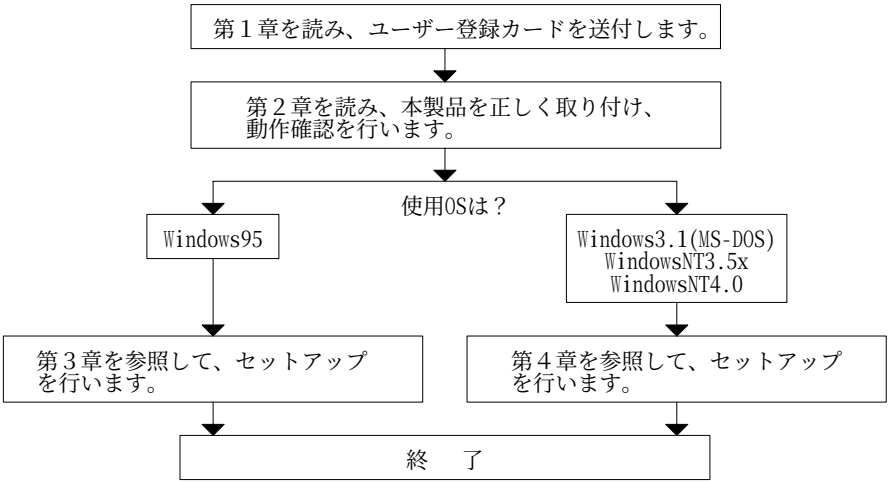
- I-O DATA,PLANTは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windows,WindowsNT,MS,MS-DOSは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- Ethernetは、米国 Xerox Corporationの登録商標です。
- NetWareは、米国 Novell,Inc.の登録商標です。
- ArtisoftとLANtasticは、米国 Artisoft,Inc.の登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

このたびは、PC-9800シリーズ用LANアダプタボード LA-98シリーズをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

本書をご覧になるにあたって

・本書の見方

以下のフローに沿って、必要な箇所をお読みください。



・呼び方

呼び方	意　味
LA-98シリーズ	LA2/T-98、LA/T-98及びLA/T-98SB
「ネットワークOS」または「NOS」	Network Operating System
Windows95	Microsoft® Windows®95 Operating System
Windows3.1	Microsoft® Windows® Operating System Version3.1
WindowsNT3.5x	Microsoft® WindowsNT® Operating System Version3.5及びVersion3.51
WindowsNT4.0	Microsoft® WindowsNT® Operating System Version4.0
WindowsNT	WindowsNT3.5x及びWindowsNT4.0
Windows	Windows95,Windows3.1,WindowsNT3.5x及びWindowsNT4.0の総称

・ハードウェア構成

本書では以下のような構成を想定して説明しています。構成の相違点を確認しながら読み進めてください。

《ドライブ構成》

A：ハードディスク装置
　　使用するOSがインストール済みで起動可能
B：ハードディスク装置
C：フロッピィディスク装置3.5インチ(1.44MB/1.25MB/720KB)
D：CD-ROMドライブ装置



パソコン本体の動作モードで「ハイレゾリューションモード」が使用できる機種の場合は、必ず「ノーマルモード」でご使用ください。

はじめに i
目次 iii

第１章 ご使用になる前に……1

1.1 特徴 1
1.2 箱を開けたら 2
1.3 動作環境 5
1.4 取り扱い及び使用上の注意 6
1.5 実行用ディスクの作り方 7

第２章 取り付け方法……8

2.1 各部の名称 8
2.2 LEDインジケータ 9
2.3 取り付け １０
2.3.1 LA/T-98SBの取り付け １０
2.3.2 LA/T-98,LA2/T-98の取り付け １３
2.4 動作確認 １５

第３章 日本語Windows95で使用するには ……２０

3.1 インストール方法 ２０
3.1.1 インストール ２０
3.1.2 インストール終了後の確認 ２４
3.2 ピア・ツー・ピア接続の設定 ２６
3.2.1 ファイルとプリンタの共有 ２６
3.2.2 メールの設定 ３８
3.3 各種ネットワークシステムへの接続 ５５
3.3.1 NetWareサーバへの接続 ５６
3.3.2 WindowsNTサーバへの接続 ６１
3.3.3 LANtastic for Windows95へのセットアップ ６４

第4章 他のOSで使用するには……65

4.1 MS-DOS及び日本語Windows3.1へのセットアップ..... 65
4.1.1 プラグ＆プレイ対応パソコンへの設定 65
4.1.2 NetWare 3.11J/3.12J/4.1J/4.11Jへのｾｯﾄｱｯﾌﾟ 69
● サーバの設定 69
● クライアントの設定 72
4.1.3 Microsoft LAN Manager V2.1xへのセットアップ ... 75
4.1.4 Personal NetWare J1.0へのセットアップ 76
4.1.5 LANtastic 6.0へのセットアップ 76
4.2 日本語WindowsNT3.5xへのセットアップ..... 77
4.3 日本語WindowsNT4.0へのセットアップ..... 79

付録1 困った時には……84

● 自己診断中のトラブル 84
● Windows上でのトラブル 87

付録2 ネットワークの仕様及び接続方法……90

付録3 用語解説……93

付録4 仕様……97

付4.1 パソコン環境..... 97
付4.2 ハードウェア仕様..... 100

PLANTコールセンターへのお問い合わせ 101
サポートソフトのバージョンアップ 102
5ｲﾝﾁﾒﾃﾞｨｱへの交換ｻｰﾋﾞｽ..... 103
1.25MBﾌｫｰﾏｯﾄへの交換ｻｰﾋﾞｽ..... 104
修理について 106

第1章 ご使用になる前に

この章では、LA-98シリーズをご使用になる上で必要となる事項を説明しますので、最初に必ずお読みください。

1.1 特徴

●Ethernet IEEE 802.3に準拠しています。

●ACCTON社のMPX2（Multi Packet Accelerator 2）テクノロジーによって環境設定やデータのスループットなどに高いパフォーマンスが得られます。

●フル・デュプレクス機能に対応しています。
フル・デュプレクス機能に対応しているスイッチングハブなどと組み合わせることにより同時にデータの送受信が行え、より高いパフォーマンス（理論値:２倍[環境によって異なります]）が得られます。

●98セカンドバスTYPEⅡを搭載し、拡張スロットを節約しながら機能拡張が図れます。

●ネットワーク状態の監視用LEDインジケータが装備されています。

●RJ-45[10BASE-T]（LA2/T-98の場合はBNC[10BASE2]も使用可能です）が使用できます。

●ソフトウェアで環境設定を行うスイッチレス設計です。

●Novell NetWare,Windows95,WindowsNTに対応しています。

1.2 箱を開けたら

・ 同梱構成品

・スタンダードセット

内容物	個数	備考
LANアダプタボード	１枚	LA/T-98またはLA2/T-98またはLA/T-98SB
サポートソフトウェアディスク	２枚	3.5インチ2HD（1.25MB：LA2/T-98用のみ1.44MB）
取扱説明書	１冊	本書
SERVERⅡ	１枚	3.5インチ2HD（1.25MB）
SERVERⅡ取扱説明書	１冊	
Verシール	２枚	
ハードウェア保証書	１枚	
ハードウェアシリアルNo.シール	１枚	
ユーザー登録カード	１枚	本書巻末
BNC T型コネクタ	１個	LA2/T-98のみ添付
ボードカバー	１個	LA/T-98SBのみ添付
ロッキング・カード・スペーサ	１個	LA/T-98SBのみ添付
フックピンとロックピン（予備）	各２個	LA/T-98SBのみ添付

・５ボードセット

内容物	個数	備考
「はじめにお読みください」	１枚	差し込み
LANアダプタボード	５枚	LA/T-98
サポートソフトウェアディスク	２枚	3.5インチ2HD（1.25MB）
取扱説明書	１冊	本書
SERVERⅡ	１枚	3.5インチ2HD（1.25MB）
SERVERⅡ取扱説明書	１冊	
Verシール	２枚	
ハードウェア保証書	５枚	
ハードウェアシリアルNo.シール	５枚	
ユーザー登録カード	１枚	本書巻末
ユーザー登録カード返送用封筒	１枚	

・LANtasticセット

内容物	個数	備考
「LANtasticについて」	１枚	差し込み
LANアダプタボード	１枚	LA/T-98
LANtastic	１式	3.5インチ2DD 7枚 （720KB）　マニュアル4冊 LANtasticｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ行きユーザー登録カード
サポートソフトウェアディスク	２枚	3.5インチ2HD（1.25MB）
取扱説明書	１冊	本書
WinKitⅡ	２枚	3.5インチ2HD（1.25MB）
WinKitⅡ取扱説明書	１冊	
SERVERⅡ	１枚	3.5インチ2HD（1.25MB）
SERVERⅡ取扱説明書	１冊	
Verシール	３枚	
ハードウェア保証書	１枚	
ハードウェアシリアルNo.シール	１枚	
ユーザー登録カード	１枚	本書巻末

・LANtastic for Windows95セット

内容物	個数	備考
「LANtasticについて」	１枚	差し込み
LANアダプタボード	１枚	LA/T-98
LANtastic for Windows95	１式	3.5インチ2HD(1.44MB) .....2枚 マニュアル .....1冊 インストール前の注意 .....1冊 TECNICAL SUPPORT SERVICES.....1枚 ユーザー登録カード
サポートソフトウェアディスク	２枚	3.5インチ2HD（1.25MB）
取扱説明書	１冊	本書
Verシール	１枚	
ハードウェア保証書	１枚	
ハードウェアシリアルNo.シール	１枚	
ユーザー登録カード	１枚	本書巻末

万が一、不足がございましたら弊社PLANTコールセンターまでお知らせください。

・ ユーザー登録カードのご返送

1)．添付のVerシールをユーザー登録カード、サポートソフトウェアディスクの「Verシール」と書かれている欄、本書の巻末に貼ってください。

2)．ユーザー登録カードに添付のハードウェアシリアルNo.シールを貼り、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。



注 意

1)弊社では、PLANTコールセンターでの質問受け付けやソフトウェアのバージョンアップサービスなどを行っていますが、これらのサービスはユーザー登録カードをご返送くださった方のみが対象となります。
お買い上げいただいた製品ごとに必ずご返送ください。
2)必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できませんので、必ずご確認ください。

1.3 動作環境

ご使用の機種や環境を再度ご確認ください。

• パソコン本体の機種

・CPU 386SX以上のNEC PC-9800シリーズ及びEPSON PC-386/486/586シリーズのデスクトップタイプ

・LA/T-98SBの場合は、98セカンドバスTYPEⅡベースボードが必要です。
（弊社製SC-98Ⅱ,GA-DRVx/98など）

注意

1) パソコン本体をノーマルモードにしてご使用ください。
2) LA/T-98SBの場合、動作可能なパソコン本体の機種は、LA/T-98SBを取り付ける98セカンドバスTYPEⅡベースボードの対応機種にも依存します。

• 対応ＯＳ環境

日本語Windows95
日本語WindowsNT3.5x/4.0
日本語Windows3.1
MS-DOS Ver 3.30C以降

• 対応ＮＯＳ環境

クライアント・サーバ

日本語Windows95
日本語WindowsNT3.51/4.0
NetWare 3.12J/4.1J/4.11J
Microsoft LAN Manager V2.1xJ

ピア・ツー・ピア

日本語Windows95
日本語WindowsNT3.51/4.0
Personal NetWare J1.0
LANtastic 6.0
LANtastic for Windows95

ネットワークプロトコル

packet driver for FTP TCP/IP
ODI4.0/NDIS2.x,3.x

1.4 取り扱い及び使用上の注意

・ 本製品の取り付けや取り外しは、必ずパソコン本体及び周辺機器の電源を切り、コンセントを外してから行ってください。故障の原因になることがあります。

・ 本製品は精密機器です。落としたり衝撃を加えないよう、丁寧に取り扱ってください。

・ 本製品に対し、以下のことを行わないでください。火災・感電・動作不良の原因になります。
  ・分解や改造などをしないでください。
  ・濡れた手などで本製品を取り扱わないでください。

・ 保証について

保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有料修理となります。
また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

15 実行用ディスクの作り方

本製品に添付されているサポートソフトウェアディスク（以下サポートディスク）は必ずバックアップを取り、バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてご使用ください。
ここでは、実行用ディスクの作り方を説明します。

1 「・ **同梱構成品**」(P2)に含まれるすべての枚数分のフォーマット済みの空きフロッピィディスク(3.5インチ2HDまたは2DD)を用意します。

2 サポートディスクを書き込み禁止にします。

3 **Windows95の場合**は、『ﾏｲ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』の「3.5ｲﾝﾁ FD(C:)」を右クリックし「ﾃﾞｨｽｸのｺﾋﾟｰ」を選択します。

Windows95の例)



MS-DOS（Windows3.1）の場合は、MS-DOSのコマンド入力状態で DISKCOPY コマンドを実行します。

MS-DOSの例)

```
A:\>diskcopy c: c:・
```

（下線部入力）

4 サポートディスクと空きフロッピィディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。

注 意

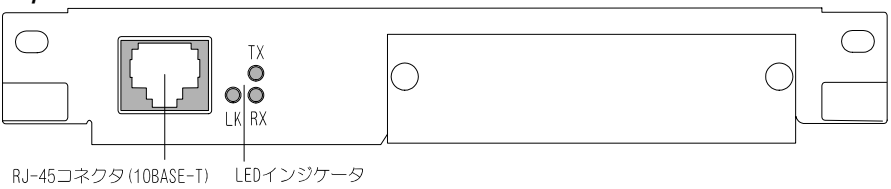
サポートディスクを破損した場合の修理は有償です。
必ずバックアップを取り、サポートディスクは大切に保管してください。

第2章 取り付け方法

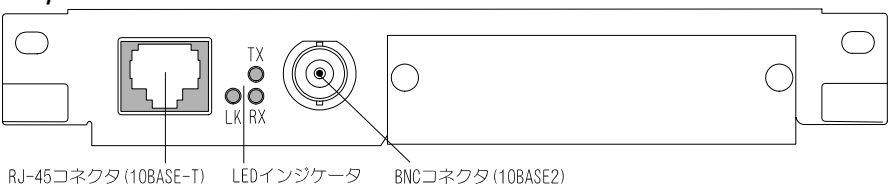
LA-98シリーズは、PC-9800シリーズ汎用拡張スロットに装着することができます。
この章では、パソコンにLA-98シリーズをセットアップする方法を説明します。

2.1 各部の名称

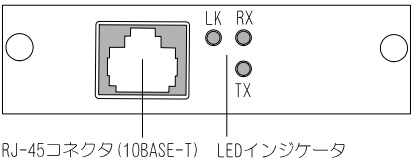
LA/T-98



LA2/T-98



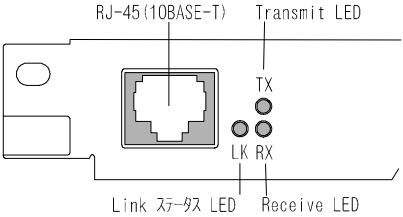
LA/T-98SB



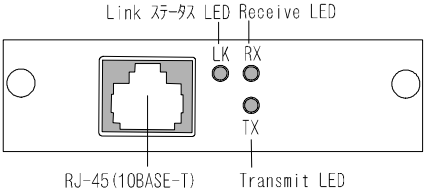
2.2 LEDインジケータ

LEDインジケータ

LA/T-98またはLA2/T-98の場合



LA/T-98SBの場合



・Link ステータスLEDインジケータ

Link(LK)ステータスLEDインジケータは、10BASE-Tでデータリンクが有効になると点灯します。

このLEDはLA-98シリーズが通常の動作状態の時、常に点灯しています(緑色)。そうでなければRJ-45の接続をチェックしてください。

注 意

このLEDは、BNC接続のステータスには反応しません。ネット回線の接続タイプをチェックする場合は、lasetup.exeの「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」を使用してください。（【2.4 動作確認】(P15)参照）

・Transmit LEDインジケータ

Transmit(Tx)LEDインジケータは、データの送信状態を示します。

緑色の点滅（点灯）状態は、ネットワークの利用状況を示しています。

・Receive LEDインジケータ

Receive(Rx)LEDインジケータは、データの受信状態を示します。

緑色の点滅（点灯）状態は、ネットワークの利用状況を示しています。

2.3 取り付け

LA/T-98SBは98セカンドバスTYPEⅡベースボード上に、LA/T-98,LA2/T-98はパソコン本体のPC-9800シリーズ汎用拡張スロットへ取り付けます。


注 意

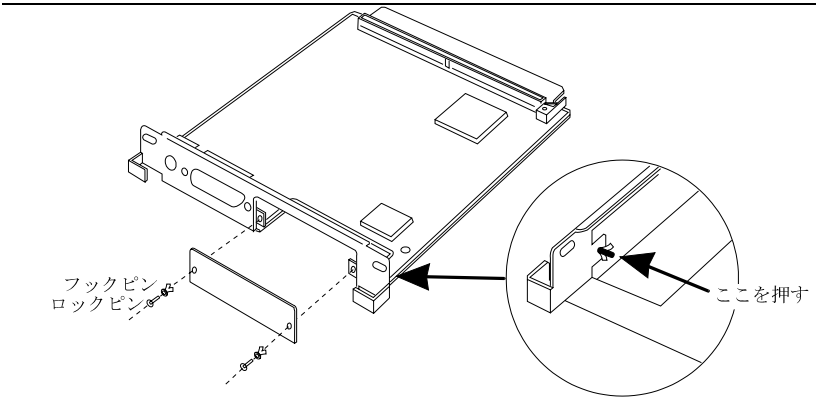
1) 各ボードの取り付け、取り外しの際は、必ずパソコン本体および周辺機器の電源をOFFにして、電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行ってください。
2) PC-H98シリーズでご使用の場合、LA-98シリーズ取り付け終了後にパソコン本体添付のマニュアルを参照し、システム環境の再設定「オプションボード構成情報の変更」を行ってください。
3) 「プラグ＆プレイ」に対応しているパソコンをWindows3.1で使用される場合は、【4.1.1 プラグ＆プレイ対応パソコンへの設定】(P65)を参照し、LA-98シリーズが使用する「割り込み」と「I/Oポート」を設定してから、取り付けを行ってください。

2.3.1 LA/T-98SBの取り付け

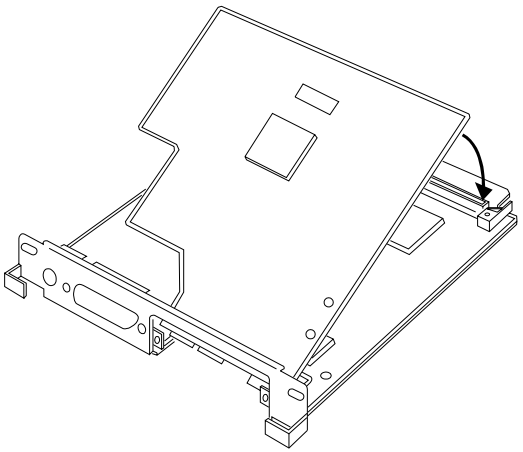
LA/T-98SBを98セカンドバスTYPEⅡベースボードに取り付けます。必要のない方は、読み飛ばしてください。

（ここでは、弊社製グラフィックアクセラレータボードGA-DRVx/98（GA-DRV2/98またはGA-DRV4/98）を例にしています。GA-DRVx/98がパソコン本体に実装されている場合は、拡張スロットからGA-DRVx/98を取り外しておきます。）

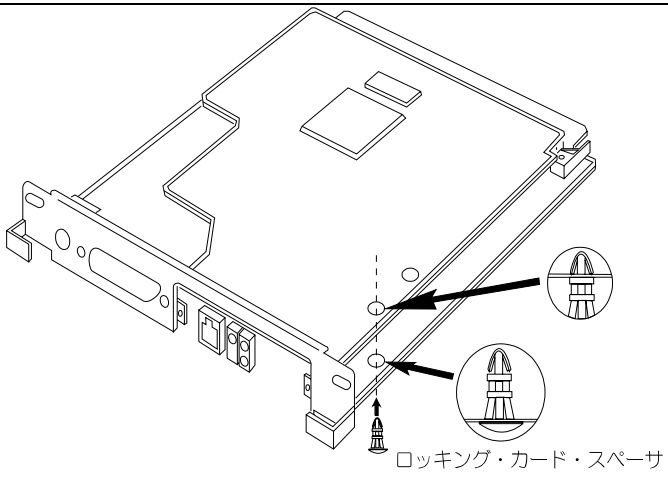
1 GA-DRVx/98から98セカンドバスTYPEⅡ用ボードカバーを取り外します。（ロックピンを裏から押し出すと取りやすくなります。ロックピンとフックピンは後で使用しますので、なくさないでください。）



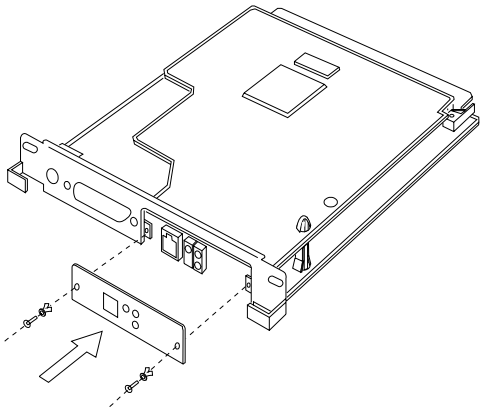
2 LA/T-98SBのコネクタ部分をGA-DRVx/98の窓から出しながら、LA/T-98SBとGA-DRVx/98のコネクタ部分を合わせてしっかりと差し込みます。



3 ロッキング・カード・スペーサをGA-DRVx/98の裏側から図のようにしっかりと固定します。LA/T-98SBとGA-DRVx/98のコネクタ部分を合わせて、しっかりと差し込み、ロッキング・カード・スペーサの上部で固定します。



4 操作1で取り外したロックピンとフックピンでLA/T-98SB用ボードカバーを GA-DRVx/98に取り付けます。（パソコン本体への取り付けは次のページを参照してください。）



2.3.2 LA/T-98,LA2/T-98の取り付け

（ここではLA2/T-98を例にしています。）



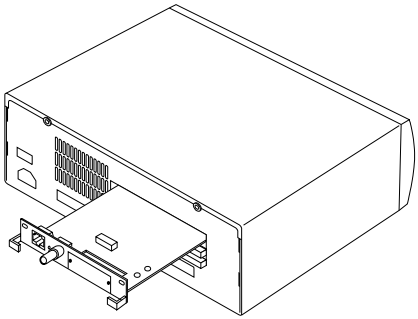
注 意

PC-98XL^{2}への取り付けについては、パソコン本体に付属の取扱説明書をご参照ください。

1 パソコンの電源スイッチを切り、周辺機器に接続されているケーブルを全て取り外します。

2 空いている拡張スロットのスロットカバーを取り外してください。

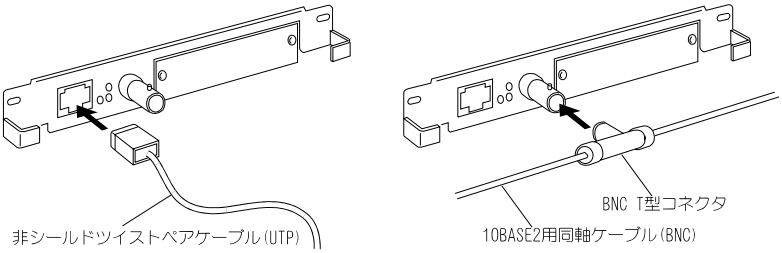
3 拡張スロットにLA-98シリーズを取り付けます。
LA-98シリーズが拡張スロットに適切に装着されることを確認しながら押し込みます。



4 拡張スロットにLA-98シリーズが確実に固定されるように、スロットカバー用のネジを取り付けます。

5 操作1で取り外された、全ての周辺機器やケーブルを元に戻します。

6 LA-98シリーズをネットワークに接続します。（「10BASE-T用 非シールドツイストペアケーブル」または「10BASE2用 同軸ケーブル」のどちらか一方を接続してください。）



2.4 動作確認

LA-98シリーズの動作確認を行います。
動作確認は、MS-DOS上で動作する lasetup.exe で行います。lasetup.exeはLANアダプタボードの自己診断による動作確認を行います。


特に注意

動作確認を行う場合は、config.sysやautoexec.batに各種ネットワークドライバ（NetWare,MS LAN Manager,LANtastic等）を組み込まない状態でテストを行ってください。
組み込まれたまま動作確認を行うと、パソコンがハングアップしたり、EEPROMの内容が破壊されたりして正常に動作しなくなる場合があります。EEPROM等の修理は、有償修理となりますのでご注意ください。

診断及び設定が正常なのを確認後、NetWareクライアントにLA-98シリーズの設定を反映させる事ができます。画面の指示に従って作業を進めてください。ただし、設定の反映はNetWareクライアントをインストールした後に行ってください。インストールしていない場合は、「終了」を選んでください。

1 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、ハードディスクからMS-DOSを起動します。

（**Windows95を使用している場合**は、Windows95の起動時（Windows 95 を起動しています...の表示中）に[F8]キーを押してください。「Microsoft Windows 95 起動メニュー」が表示されたら[SHIFT]+[F5]キーを押して、DOSプロンプトを起動してください。）

2 フロッピィディスクドライブに添付のサポートソフトウェアディスクをセットし、以下のようにセットアッププログラムを起動します。

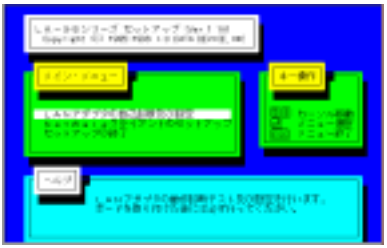
書式　［サポートソフトウェアディスクのドライブ名］:\lasetup

例）

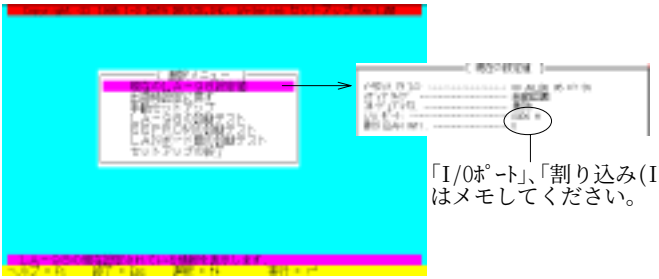
```
A:\>c:\lasetup・
```

（下線部入力）

セットアップ画面が表示されたら「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」を選択してください。



3 まず、「現在のＬＡ－９８設定値」を選択してLA-98シリーズの設定値を確認します。
他の周辺機器と重複する場合は、「手動セットアップ」で重複する設定を変更するか、一旦セットアッププログラムを終了して、MS-DOSコマンド入力状態へ戻ります。電源を切り、重複している周辺機器の設定を変更してください。



注意

1)WindowsでLA-98シリーズを使用する場合は、設定した「I/O ポート」，「割り込み」をWindows上でのLA-98シリーズの設定と一致させる必要があります。「I/Oポート」及び「割り込み」の設定値は、メモなどに書き留めておいてください。
2)併用する拡張ボードの割り込みレベルがIRQで表記されている場合は、次ページの表でINT表記との相対関係を確認してください。

・**INT/IRQ対応表**

INT 表記	INT 0	INT 1	INT 2	INT 3	INT41	INT42	INT 5	INT 6
IRQ 表記	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 9	IRQ10	IRQ11	IRQ12	IRQ13

4 LA-98シリーズの設定値を変更する場合は、「選択メニュー」から「手動セットアップ」を選択してください。パソコン環境、ネットワーク環境に応じて各項目を設定変更してください。



ﾒﾃﾞｨｱ ﾀｲﾌﾟ　(自動認識、10Base-T,リンク テスト無効)
ﾌﾙ･ﾃﾞｭﾌﾟﾚｸｽ　(無効、有効)
I/O ポート　(00D0h～00D8h)
割り込み(INT)　(0,1,2,5,6)

メディア タイプ

トランシーバの設定は、使用しているLA-98シリーズのタイプに依存します。それは、ネットワーク回線タイプに従う必要があります。
通常はシステムに回線タイプを自動認識させるための「自動認識」を選択してください。（出荷時設定は「自動認識」）

フル・デュプレクス

接続しているサーバや全ての相互連結のデバイス(例えば、スイッチングハブ)がこのモードに対応している場合、フル・デュプレクスを可能に設定してください。（データ送受信が同時に行えるため理論値: 2 倍の高速転送を実現します）

I/O ポート

表示されたリスト(00D0h～00D8h)からの利用できるベースアドレスを2h単位で選択します。（出荷時設定は、00D0hです。）
選択したアドレスをベースに、上位アドレスの16+2(01D0h,F1D0h)バイトが使用されます。（出荷時設定の場合、00D0h～F0D0h）

割り込み

利用できるハードウェアの割り込みを、表示されたリスト(0,1,2,5,6)から選択してください。LA-98シリーズのデフォルト割り込み設定は、INT 0(IRQ 3)です。

各項目が他の周辺機器の環境と競合していないか確認してください。



注 意

1)「I/O ポート」、「割り込み」がパソコン本体や他の拡張ボードと重複しているとパソコン本体が起動できなくなる場合があります。重複しないように設定してください。
2)WindowsでLA-98シリーズを使用する場合は、設定した「I/O ポート」、「割り込み」をWindows上でのLA-98シリーズの設定と一致させる必要があります。「I/Oポート」及び「割り込み」の設定値は、メモなどに書き留めておいてください。
3)設定する割り込みレベルはINTで表記されています。IRQ表記との相対関係を確認してください。(「・INT/IRQ対応表」(P17)参照)

5 設定したLA-98シリーズの環境を更新してください。

6 必要に応じて自己診断プログラムでLA-98シリーズをテストしてください。
LA-98シリーズのセットアップ状況をテストするには、「選択メニュー」から「ＬＡ－９８の診断テスト」または「ＥＥＰＲＯＭの診断テスト」を選択してください。

「ＬＡ－９８の診断テスト」の場合

このテストは、LA-98シリーズと対応して回線システムを監視します。
（このテストでは、ネットワーク上のLA-98シリーズ間テストは行いません。）
画面には、各々のテストの「正常」または「異常」のカウント数を表示します。テストが異常の場合は、スペースキーを押すことによって対応可能なメッセージを表示します。
LA-98シリーズのテストは、次の項目をチェックします。（「ESC」キーで中止するまでチェックを続けます。「正常」のカウンタが5000を示すまでの間、「異常」がカウントされないことを確認すれば良いでしょう。）

・「装置構成 テスト」 .....LA-98シリーズの初期状態チェック。
・「Ｉ／Ｏ レジスタ テスト」 ..I/Oポートアクセスのチェック。
・「内部 ループバック テスト」 LA-98シリーズのコントローラのチェック。
・「外部 ループバック テスト」 ネットワークリンクをチェック。
・「RAM テスト」 .....ボードの側のRAM状態をチェック。


注 意

トラブルが持続するならば、LAN間接続（ケーブル,ハブなど）が確実に接続されていることを確認し、トラブルを確定するためにパソコンを再起動して再び「LA-98の診断テスト」を動かしてください。

「ＥＥＰＲＯＭの診断テスト」の場合

LA-98シリーズのボード上EEPROMの診断テスト（各レジスタのリード/ライト）を動作させ、異常のないことを確認してください。


特に注意

CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATに、各種ネットワークドライバを組み込まない状態でテストを行ってください。組み込まれたままこのテストを行うと、EEPROMの内容が破壊され、正常に動作しなくなる場合があります。この場合は有償修理となりますのでご注意ください。

7 必要に応じてネットワークに対する診断を行ってください。

ネットワークが接続されている環境で、装着後のLA-98シリーズの能力を確かめるために、選択メニューから「**ＬＡＮボード間の診断テスト**」を選択してください。少なくとも１台のパソコンに送信側（イニシェータ発信準備）を、少なくとも別のもう１台のパソコンに受信側（レスポンダ受信準備）をセットアップしてください。このテストは、ネットワークのデータ送受信をテストします。

ただし、送信側、受信側ともLA-98シリーズを使用する必要があります。

レスポンダは、ネットワークの各々のイニシェータで通信のステータスを表示し、イニシェータは、現在のレスポンダと対応する通信のステータスを表示します。


注 意

すでに存在しているネットワーク環境に接続してテストを行う場合は、事前にネットワークシステム管理者にご相談ください。

第3章 日本語Windows95で使用するには

第２章で取り付けたLA-98シリーズをWindows95で使用するには、LA-98シリーズのWindows95用のドライバのインストール及びネットワークの設定が必要です。この章では、ドライバのインストール方法及び各種ネットワークへの接続について説明します。

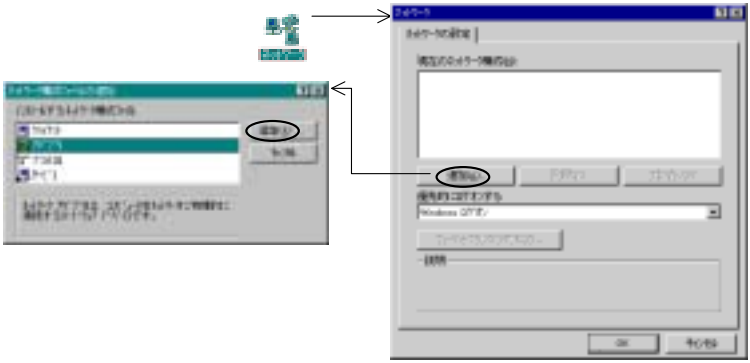
注 意

インストールの前には必ず「2.4 動作確認」(P15)を参照して動作確認を行い、診断テストが正常なことを確認してください。
また、「2.4 動作確認」時で設定した「I/Oﾎﾟｰﾄ」、「割り込み」をWindow95上でのLA-98シリーズの設定と一致させる必要がありますので設定値は必ずメモに取っておいてください。

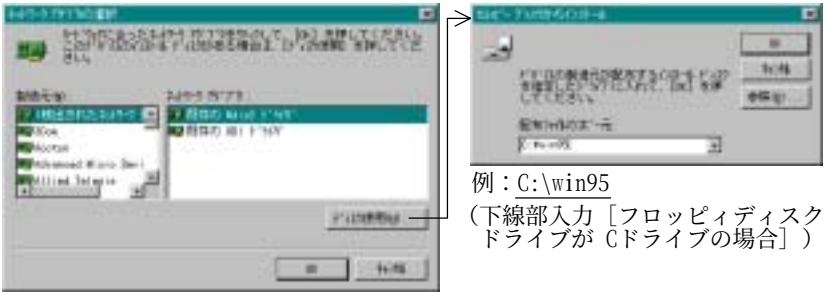
3.1 インストール方法

3.1.1 インストール

1 Windows95起動後、『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックし、『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[追加]ボタンをクリックしてください。次に、『ﾈｯﾄﾜｰｸ構成ﾌｧｲﾙの追加』画面で「ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択し、[追加]ボタンをクリックしてください。

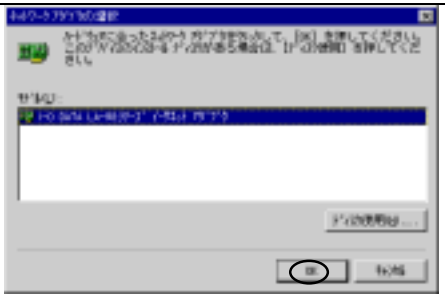


2 「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入します。『ﾈｯﾄﾜｰｸ ｱﾀﾞﾌﾟﾀの選択』画面で[ﾃﾞｨｽｸ使用]をクリックし、『ﾌﾛｯﾋﾟｰ ﾃﾞｨｽｸからｲﾝｽﾄｰﾙ』画面の「配布ﾌｧｲﾙのｺﾋﾟｰ元」にフロッピィディスクドライブのWIN95のパス指定（例 C:\WIN95）を行います。指定後、[OK]ボタンをクリックします。

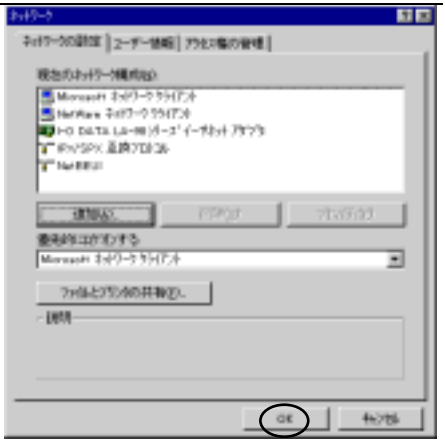


例：C:\win95
（下線部入力［フロッピィディスクドライブが Cドライブの場合］）

3 『ﾈｯﾄﾜｰｸ ｱﾀﾞﾌﾟﾀの選択』画面で「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」と表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



4 『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面でWindows95のマニュアルに従って各種のﾈｯﾄﾜｰｸ構成を設定してください。設定後、[OK]ボタンをクリックします。
（この設定は、Windows95再起動後、『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックしても変更できます。）

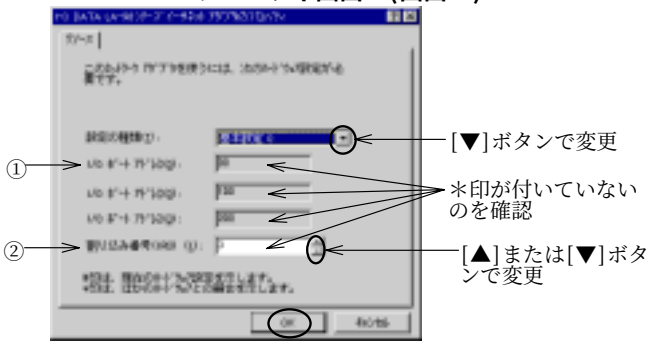


参照

Windows95の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」の設定により、Windows95同士の「ピア・ツー・ピア」接続、「NetWareクライアント」接続、「WindowsNT3.5x/4.0クライアント」接続などが可能になります。詳細は【3.2 ピア・ツー・ピア接続の設定】(P26)や【3.3 各種ネットワークシステムへの接続】(P55)をご覧頂くか、ネットワークシステム管理者にご相談ください。

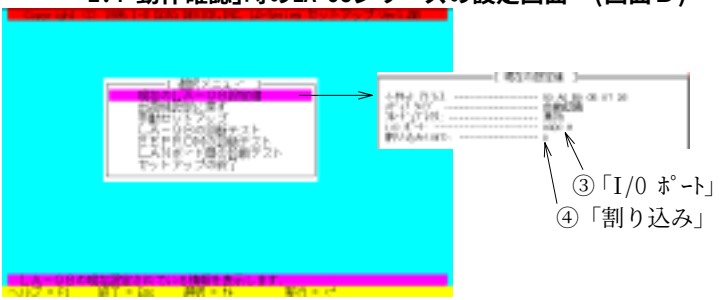
5 『I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面では、「I/O ﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」及び「割り込み番号(IRQ)」の設定値の前に＊印が付いていないのを確認してください。付いていた場合は、[▲]または[▼]をクリックし、設定値を変更してください。
また、設定する「I/Oﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」及び「割り込み番号(IRQ)」は、「2.4 動作確認」(P15)での動作確認時のLA-98シリーズの設定値と同一にしてください。

プロパティ画面　（画面Ａ）



同一にする値は、上記の画面Ａの①の「I/Oﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」と下記の画面Ｂでの③の「I/O ﾎﾟｰﾄ」です。また画面Ａの②の「割り込み番号(IRQ)」と画面Ｂの④の「割り込み」の値も同一にしてください。

「2.4 動作確認」時のLA-98シリーズの設定画面　（画面Ｂ）



注 意

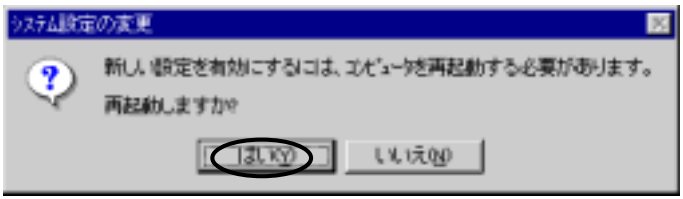
【2.4 動作確認】(P15)で設定する「割り込み」は INT 表記になっています。Windows95で設定する「割り込み」はIRQ 表記になっていますので間違えないようにしてください。(「・INT/IRQ対応表」(P17)参照)

6 設定後、[OK]ボタンをクリックします。インストールを開始します。

注 意

途中でWindows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）

7 『ｼｽﾃﾑ設定の変更』画面が表示されたら、[はい]ボタンをクリックしてパソコンを再起動させてください。



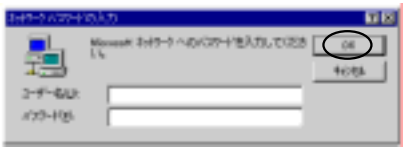
以上でインストールは終了です。

3.1.2 インストール終了後の確認

ここではLA-98シリーズがWindows95で正常に認識されているかどうかの確認方法を説明します。
インストール終了（再起動）後、必ず以下の事を確認してください。

パソコンを再起動すると起動途中で以下のA画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力して[OK]ボタンをクリックしてください。
起動後、デスクトップ上に、「ﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンが追加されたことを確認してください。（以下のB画面）

A 「ﾈｯﾄﾜｰｸﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力」画面



B 「ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟ」上の「ﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコン



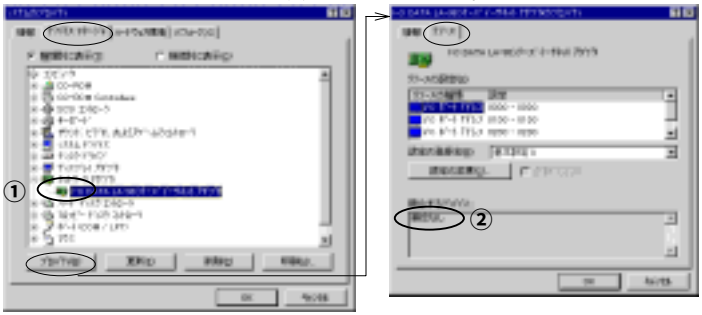
参考

Windows95では、パスワード管理も一元化されています。ユーザーID、パスワードを利用するネットワークで同一にしておけば、１つのネットワークにログインすれば、他のネットワークにユーザIDとパスワードの入力なしでログインできます。

次に、『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、「ｼｽﾃﾑ」アイコンをダブルクリックします。『ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾃﾞﾊﾞｲｽ ﾏﾈｰｼﾞｬ」タブで「ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾀﾞﾌﾟﾀ」をダブルクリックします。

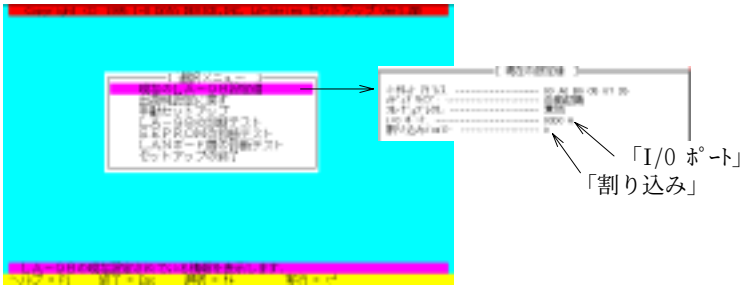
① 「ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾀﾞﾌﾟﾀ」の「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」の頭に、！マークが付いていないことを確認してください。

② 「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックし、『I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾘｿｰｽ」で、競合するデバイスがないことを確認してください。



③ 『I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾘｿｰｽ」での「I/O ﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」と「割り込み」が、【2.4 動作確認】(P15)時の設定値とそれぞれ同一になっていることを確認してください。

【2.4 動作確認】時のLA-98シリーズの設定値



注 意

1)【2.4 動作確認】(P15)で設定する「割り込み」は INT 表記になっています。Windows95で設定する「割り込み」はIRQ 表記になっていますので間違えないようにしてください。(「・INT/IRQ対応表」(P17)参照)

参 照

2)①での確認で！マークがついていたり、②でデバイスが競合していた場合や③で設定値が異なる場合は、【付録１ 困った時には】(P84)を参照してください。

3.2 ピア・ツー・ピア接続の設定

3.2.1 ファイルとプリンタの共有

Windows95を利用すれば、Windows95同士のワークグループ内のピア･ツー･ピア接続の設定を簡単に行えます。ピア･ツー･ピア接続を行えば、ファイルやプリンタの共有(ファイル(フォルダ)やプリンタを他のパソコンからアクセスできる)ができます。

＜ファイルの共有＞

ワークグループ内のデータのやりとりがマウス操作（マウスのドラッグ アンドドロップ）で簡単に行えます。データのやり取りにフロッピィディスクなどは必要なくなります。

＜プリンタの共有＞

自分のパソコンにプリンタを接続していなくても、ワークグループ内のプリンタを使用できます。

ピア･ツー･ピア接続の設定を行うには、ワークグループ内の各パソコンで

1．『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面での「ﾕｰｻﾞｰ情報」の設定
   - ユーザー情報の設定（P28参照）

2．「共有」の設定
   - 共有の指定（P30参照）
   - ファイルの共有設定（P31参照）
   - プリンタの共有設定（P33参照）

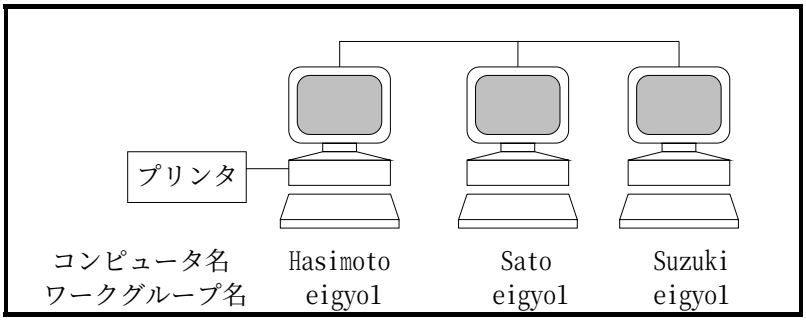
を行う必要があります。
ここでは、営業１課のワークグループ（ワークグループ名：eigyou1）での設定を例として説明します。

＜設定例＞

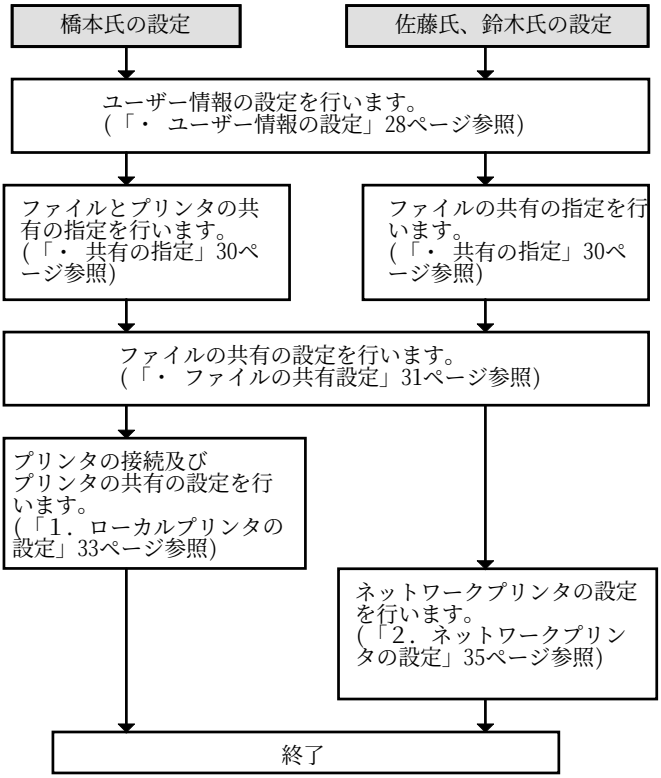
No	所属	名前	使用OS	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名	ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名	共有の設定
1	営業１課	橋本	Windows95	Hasimoto	eigyou1	ﾌｧｲﾙ及びﾌﾟﾘﾝﾀ
2	営業１課	佐藤	Windows95	Sato	eigyou1	ﾌｧｲﾙ
3	営業１課	鈴木	Windows95	Suzuki	eigyou1	ﾌｧｲﾙ

※ 「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」及び「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名」は、28ページの【・ ユーザー情報の設定】時に必要となります。

＜構成＞


プリンタ
コンピュータ名
ワークグループ名
Hasimoto
eigyo1
Sato
eigyo1
Suzuki
eigyo1

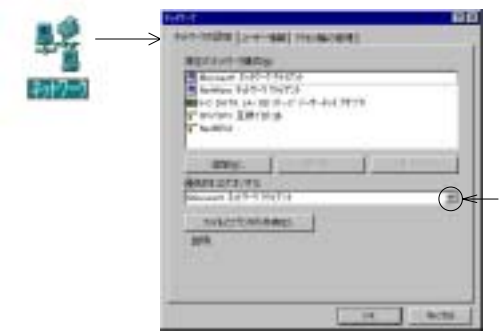
＜作業手順＞


橋本氏の設定
佐藤氏、鈴木氏の設定
ユーザー情報の設定を行います。
(「・ ユーザー情報の設定」28ページ参照)
ファイルとプリンタの共有の指定を行います。
(「・ 共有の指定」30ページ参照)
ファイルの共有の指定を行います。
(「・ 共有の指定」30ページ参照)
ファイルの共有の設定を行います。
(「・ ファイルの共有設定」31ページ参照)
プリンタの接続及びプリンタの共有の設定を行います。
(「1．ローカルプリンタの設定」33ページ参照)
ネットワークプリンタの設定を行います。
(「2．ネットワークプリンタの設定」35ページ参照)
終了

• ユーザー情報の設定

ワークグループを形成するすべてのパソコンでユーザー情報を設定します、

1 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面が表示されます。
「優先的にﾛｸﾞｲﾝする」は、「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定してください。



2 『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「ﾕｰｻﾞｰ情報」タブをクリックします。
＜設定例(P26)＞を参照して設定するパソコンすべてに「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」,「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名」,「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの説明」をそれぞれ入力します。各入力後、[OK]ボタンをクリックします。

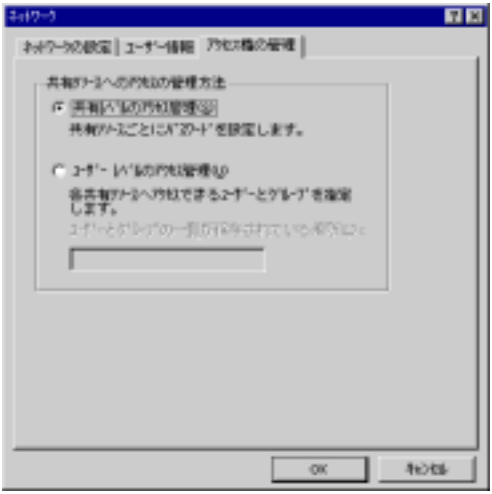
① コンピュータ名を入力します。
コンピュータ名は、ピア・ツー・ピア接続の設定終了後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンを開いた時に見える名前です。
＜設定例＞での「コンピュータ名」を入力します。

② ワークグループ名を入力します。
同一ワークグループでは、同一にする必要があります。
＜設定例＞での「ワークグループ名」を入力します。

③ コンピュータの説明を入力します。
特に入力しなくても問題ありません。



3 アクセス権の設定を行います。
『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「ｱｸｾｽ権の管理」タブをクリックします。
Windows95のピア・ツー・ピア接続のみを行う場合は、「共有ﾚﾍﾞﾙのｱｸｾｽ管理」を選択してください。



設定終了後、次ページの「・ 共有の指定」を行ってください。

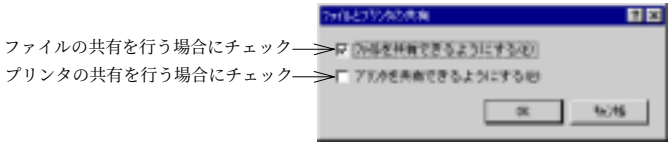
・ 共有の指定

ユーザー情報を設定後、次に、ファイル(フォルダ)やプリンタの共有を行うワークグループ内のすべてのパソコンで以下の共有の指定を行います。

1 『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[ﾌｧｲﾙとﾌﾟﾘﾝﾀの共有]ボタンをクリックします。



2 共有を行うデバイス（ファイル、プリンタ）のチェックボックスのチェックを行います。チェック後、[OK]ボタンをクリックします。
（ファイルの共有のチェックは、ファイルの共有を行うすべてのパソコンで行います。プリンタの共有のチェックは、プリンタを接続しているパソコンのみ設定(チェック)します。）



注 意

Windows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）
と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）

3 『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[OK]ボタンをクリックします。クリック後、一旦Windows95を再起動します。

この後、ファイルの共有を行う場合は、次ページの「・ ファイルの共有設定」を参照してください。プリンタの共有を行う場合は、「・ プリンタの共有設定」(P33)を参照してください。

・ ファイルの共有設定

ファイルの共有を行えば、ワークグループ内の他のパソコンから自分のパソコンのファイルやフォルダにアクセスできるようになります。
ここでは、ファイルの共有の設定について説明します。

1 『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』での共有を行いたいデバイスやフォルダを右クリックします。
メニュー内の「共有」をクリックするとデバイスのプロパティでの共有設定の画面が表示されます。
共有設定の画面では「共有する」を選択します。
「共有名」、「ｱｸｾｽ権の種類」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の設定を行います。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



2 すべてのパソコンでの設定終了後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックし、設定したワークグループのコンピュータ名の表示を確認してください。
ワークグループの各フォルダをダブルクリックすることでワークグループ内のファイルにアクセスできるようになります。



以上で、ファイルの共有の設定は終了です。

・ プリンタの共有設定

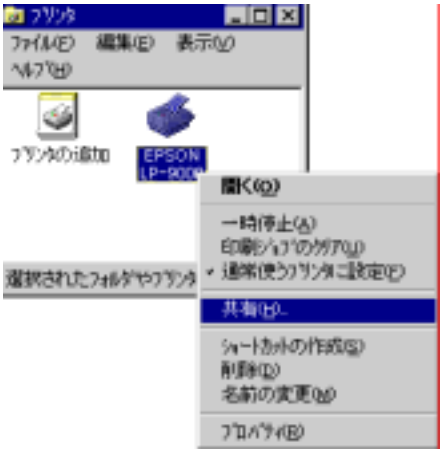
プリンタの共有の設定を行えば、ワークグループ内のプリンタを使用することができます。
ここでは、プリンタの共有の設定について説明します。
ただし、プリンタが接続されているパソコンと接続されていないパソコンでは、設定の手順が異なります。
まず、プリンタが接続されているパソコンで共有設定を行った後（以下の【１.ローカルプリンタの設定】参照）、他のパソコンでネットワークプリンタの設定（【２.ネットワークプリンタの設定】(P35)参照）を行います。

１．ローカルプリンタの設定
（プリンタが接続されているパソコンの設定）

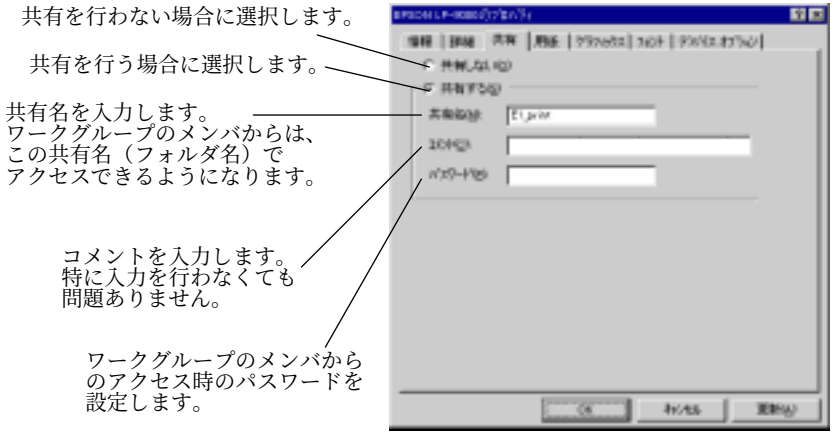
ここでは、プリンタが接続されているパソコン（＜設定例＞(P26)での橋本氏のパソコン）でのプリンタの共有設定を行います。

1 プリンタの接続及びWindows95でのプリンタの設定を行ってください。
（接続及び設定に関しては、プリンタに付属のマニュアル及びWindows95のマニュアル及びヘルプを参照してください。）

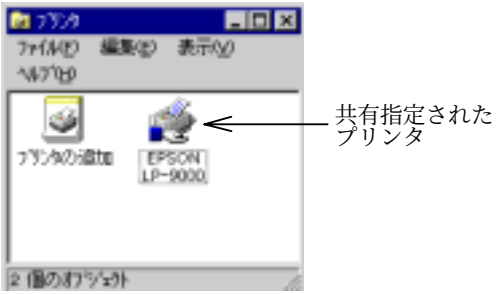
2 設定後、プリンタの共有の設定を行います。
『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』画面の「ﾌﾟﾘﾝﾀ」アイコンをダブルクリックします。
設定したプリンタが表示されています。設定したプリンタを右クリックします。メニュー内の「共有」をクリックするとプリンタのプロパティの画面が表示されます。



3 「共有する」を選択します。
「共有名」、「ｺﾒﾝﾄ」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の設定を行います。設定後、[OK]ボタンをクリックします。



以上で設定終了です。「ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」の「ﾌﾟﾘﾝﾀ」アイコンをダブルクリックすると設定したプリンタが共有指定されています。



次に次ページの【2．ネットワークプリンタの設定】を行ってください。

２．ネットワークプリンタの設定
（プリンタが接続されていないパソコンでの設定）

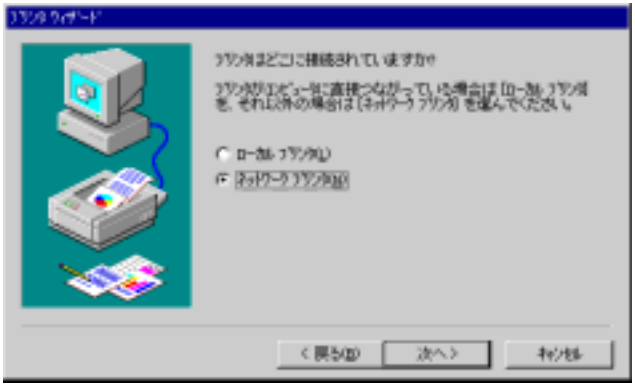
ここでは、プリンタが接続されていないパソコン（＜設定例＞(P26)）での鈴木氏、佐藤氏でのパソコン）からローカルプリンタ（＜設定例＞での橋本氏のプリンタ）を使用するためのネットワークプリンタの設定について説明します。

注 意

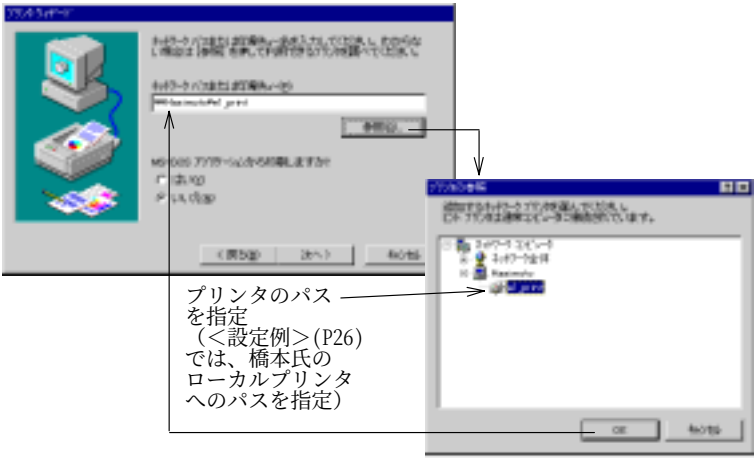
ネットワークプリンタを使用するには、「１．ローカルプリンタの設定」(P33)でのローカルプリンタが設定済みである必要があります。

1 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ﾌﾟﾘﾝﾀ』の「ﾌﾟﾘﾝﾀの追加」アイコンをダブルクリックします。『ﾌﾟﾘﾝﾀ ｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。

2 「ﾌﾟﾘﾝﾀはどこに接続されていますか?」では、「ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ」を選択後、[次へ]ボタンをクリックします。



3 「ﾈｯﾄﾜｰｸﾊﾟｽまたは印刷ｷｭｰ....」では、ネットワークパス（ローカルプリンタへのパス名）を指定し、[次へ]ボタンをクリックします。
（わからない場合は、[参照]ボタンでローカルプリンタが接続されているパス名（＜設定例＞(P26)での橋本氏のプリンタへのパス名）を選択後、[OK]ボタンをクリックすれば設定できます。）



4 「ﾌﾟﾘﾝﾀ名」を入力後、[次へ]ボタンをクリックします。

5 「ﾃｽﾄﾍﾟｰｼﾞを印刷しますか?」では、テストページを印刷する場合は「はい」を、しない場合は「いいえ」を選択後[完了]ボタンをクリックします。
ファイルのコピーを開始します。



注 意

Windows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
と入力し、画面の指示に従ってください。(FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。)

『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』画面の「ﾌﾟﾘﾝﾀ」アイコンをダブルクリックします。
設定したプリンタが表示されています。



以上でプリンタの共有の設定は終了です。

3.2.2　メールの設定

Windows95を利用すれば、Windows95からの他のネットワークとのメールのやり取りが簡単に行えます。
ここでは、ピア・ツー・ピア接続をしているパソコン同士を前提として、メールのやり取りの設定及び簡単な送受信の例を説明します。詳細は、Windows95の取扱説明書やヘルプを参照してください。

メールをやり取りするには、以下の順序で設定が必要です。

1.メールのポストオフィス管理者（メールを管理する人）の設定
　① メール管理用のポストオフィスのフォルダの作成・設定
　② 「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」のインストール及び設定
　③ ユーザー登録
2.メールユーザー（メールを使用する人）の設定
　① 受信トレイの設定

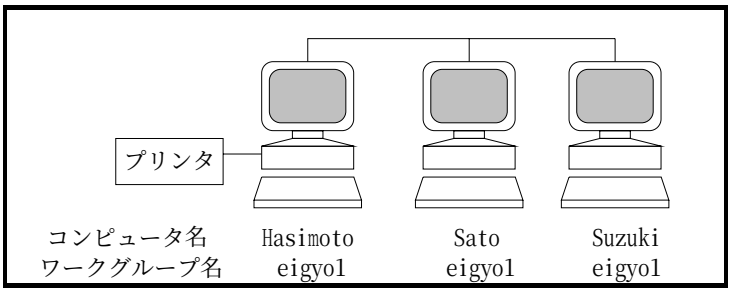

参 考

メールの送受信は、ポストオフィスという一種のデータベースを通して送信（ポストオフィスへの書き込み）、受信（ポストオフィスからの読み込み）を行います。

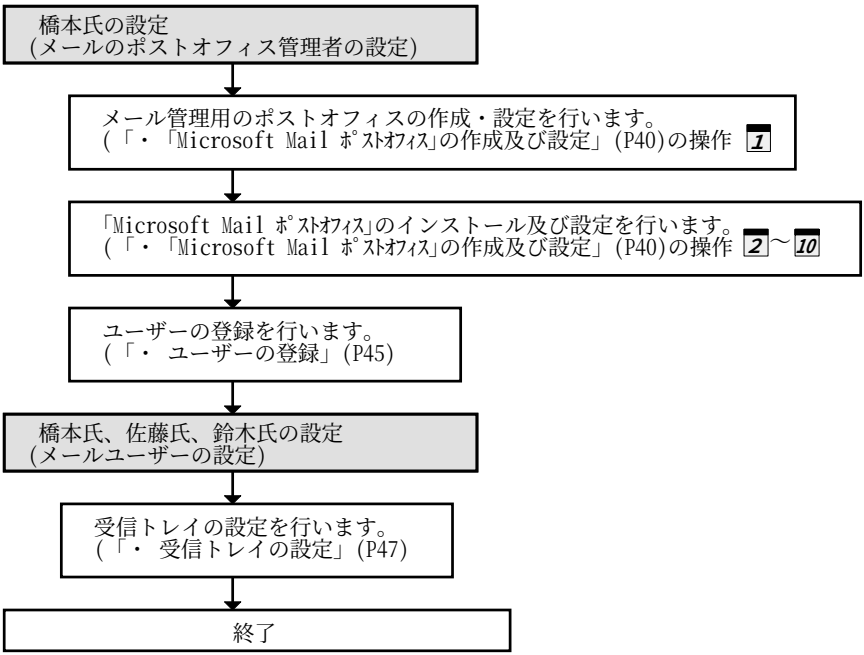
＜設定例＞

No	所属	名前	使用OS	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名	ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名	ﾒｰﾙ管理及びﾕｰｻﾞｰ
1	営業１課	橋本	Windows95	Hasimoto	eigyou1	管理者及びﾕｰｻﾞｰ
2	営業１課	佐藤	Windows95	Sato	eigyou1	ﾕｰｻﾞｰ
3	営業１課	鈴木	Windows95	Suzuki	eigyou1	ﾕｰｻﾞｰ

＜構成＞



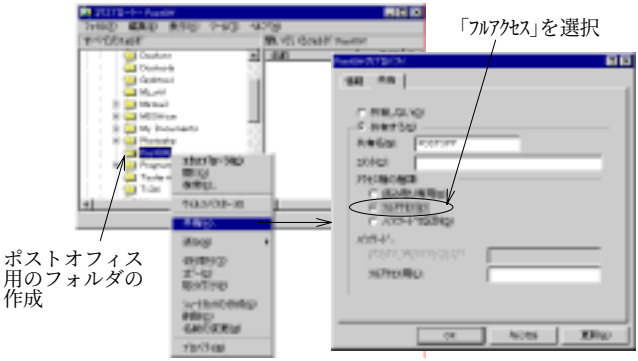
＜作業手順＞


橋本氏の設定
(メールのポストオフィス管理者の設定)
メール管理用のポストオフィスの作成・設定を行います。
(「・「Microsoft Mail ポストオフィス」の作成及び設定」(P40)の操作 1
「Microsoft Mail ポストオフィス」のインストール及び設定を行います。
(「・「Microsoft Mail ポストオフィス」の作成及び設定」(P40)の操作 2～10
ユーザーの登録を行います。
(「・ ユーザーの登録」(P45)
橋本氏、佐藤氏、鈴木氏の設定
(メールユーザーの設定)
受信トレイの設定を行います。
(「・ 受信トレイの設定」(P47)
終了

・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定

ここでは、メール管理者(＜設定例＞(P38)での橋本氏)での「「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定について説明します。

1 まず、メールを管理するためのワークグループのポストオフィスのフォルダの作成と共有指定を行います。エクスプローラ等でフォルダを作成後、他のメールユーザーから読み書きできるように「ﾌﾙｱｸｾｽ」での共有設定を行ってください。（共有の設定については、「3.2.1」の「・ 共有の指定」(P30)及び「・ ファイルの共有設定」(P31)を参照してください。）



2 『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』のインストールを行います。『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』のインストールは、「Microsoft Exchange」のインストールで行います。

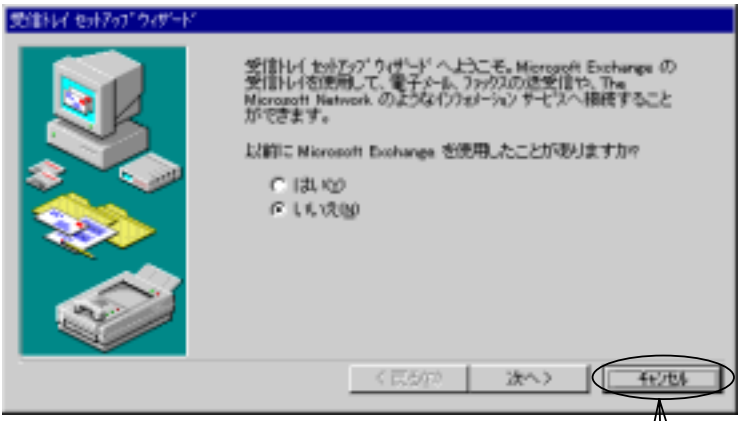
『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の「ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除」アイコンをダブルクリックし、『ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の[Microsoft Exchange]チェックボックスをチェックし、[OK]ボタンをクリックしてください。[Microsoft Exchange]のファイルのコピーを開始します。



注 意

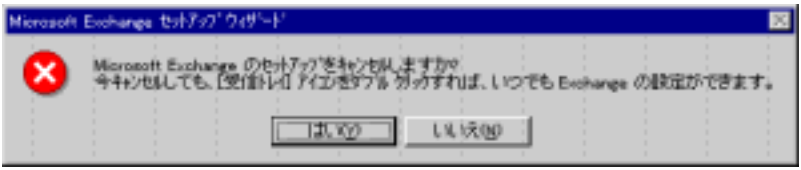
Windows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
と入力し、画面の指示に従ってください。(FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。)

3 『受信ﾄﾚｲ ｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。ポストオフィスのセットアップを終了しないとメールは使用できませんので、メール管理者のパソコンでは受信トレイの設定を中断し、ポストオフィスの設定に移ります。
そのためここでは、[ｷｬﾝｾﾙ]ボタンをクリックし、受信トレイのセットアップを中止します。

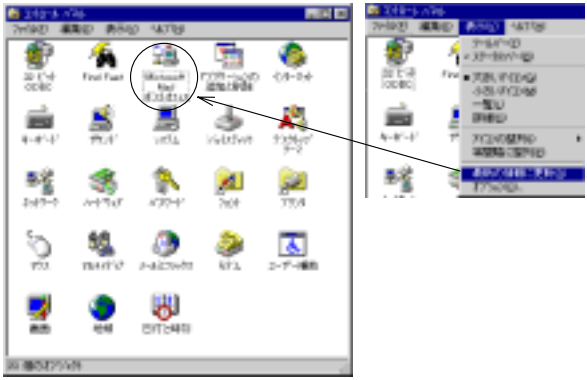


「ｷｬﾝｾﾙ」を選択

4 「Mictosoft Exchange のｾｯﾄｱｯﾌﾟをｷｬﾝｾﾙしますか?」では、[はい]ボタンをクリックします。



5 『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』に『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』アイコンが登録されています。（表示されていない場合は、「表示」メニューの「最新の情報を更新」を選択すれば表示されます。）
『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』アイコンをダブルクリックします。



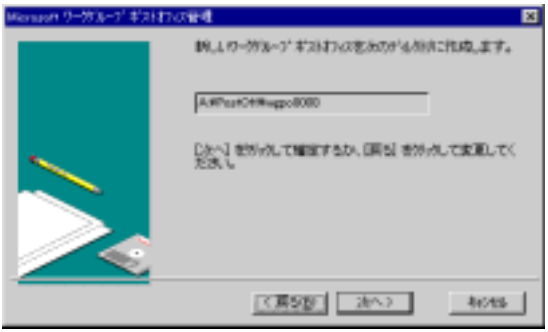
6 「Microsoft ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ管理」画面が表示されます。
新規にポストオフィスを作成しますので、「新しいﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを作成する」を選択して、[次へ]ボタンをクリックしてください。



7 「ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを作成する場所」の指定では、操作**1**で作成したフォルダのパスを指定してください。
（[参照]ボタンでもポストオフィスを作成した場所を指定できます。）



8 「新しいﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを次のﾃﾞｨﾚｸﾄﾘに作成します。」では、[次へ]ボタンをクリックします。
変更する場合は、[戻る]ボタンで再度指定し直してください。



9 「ｱｶｳﾝﾄの詳細を入力」画面が表示されます。
「名前」、「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」等を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

メール管理者の名前を入力します。
この名前は、メール管理用です。
Windows95のユーザー名と同じでなくてもかまいません。

個人用のメールボックスです。
英数字しか使えません。

パスワードを入力します。
メール専用のパスワードです。このパスワードは、Windows95のユーザー名のパスワードと同じでなくてもかまいません。

電話番号、事業所、部署、ﾒﾓを入力します。
これらの項目は、コメントです。
メールの動作には、影響しません。



10 「....にﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽが作成されました。」では、[OK]ボタンをクリックします。ワークグループのポストオフィスが作成されました。

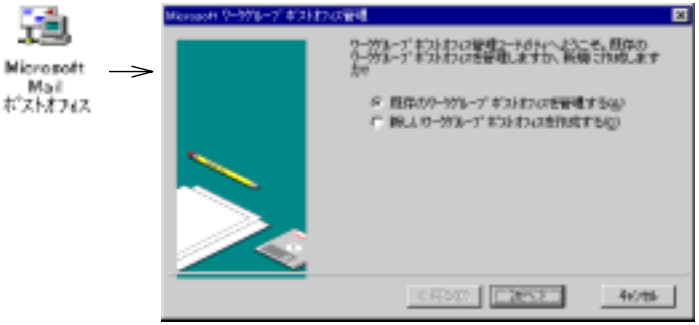


以上でワークグループのポストオフィスの作成は終了です。

• ユーザーの登録

メールを使用するためには、メール管理者(＜設定例＞(P38)での橋本氏)がメールを使用するユーザー全員の登録を行う必要があります。
「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」(P40)で作成したポストオフィスにメールを使用するユーザーの登録を行います。

1 『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』アイコンをダブルクリックします。
『Microsoft ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ管理』画面では、「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」(P40)でポストオフィスは作成しましたので、「既存のﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを管理する」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



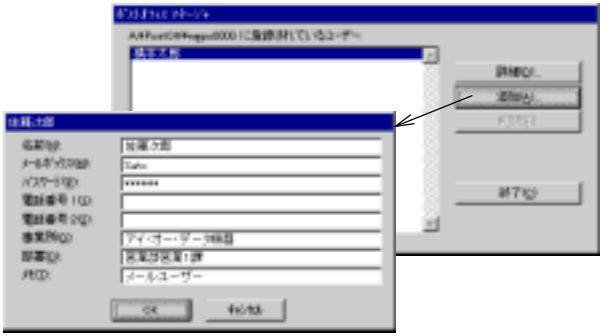
2 「管理するﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟのﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽの場所を指定してください。」では、表示されているフォルダでよければ[次へ]ボタンをクリックしてください。
（最初の表示は、「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」(P40)で作成したフォルダです。）



3 「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」と「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の入力では、「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」の手順**9**(P44)で指定したメール管理者の「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」と「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力します。（入力した「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は「*****」と表示されます。）



4 登録するユーザーの設定を行います。
[追加]ボタンで、メールを使用するすべてのユーザーの追加を行ってください。「名前」、「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は必ず入力が必要です。
すべてのユーザーの追加を終了後、[終了]ボタンをクリックしてください。



＜設定例＞(P38)では以下を追加します。

No	名前	ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ	ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
1	佐藤次郎	Sato	PASSWORD
2	鈴木三郎	Suzuki	PASSWORD

「名前」,「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」,「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は、メール専用です。

以上で、ユーザー登録は終了です。

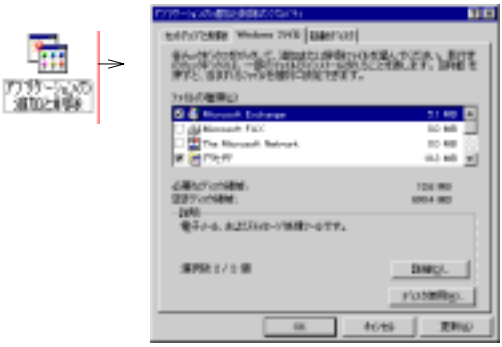
・ 受信トレイの設定

「・「Microsoft Mail ポストオフィス」の作成及び設定」及び「・ ユーザーの登録」でメール管理者の設定が終了しましたので、次にメールを使用するユーザー側の設定を行います。
メールを使用する前に[受信トレイ]の設定を行います。メールを使用するユーザー全員が設定を行う必要があります。

注 意

メール管理者(＜設定例＞(P38)での橋本氏)がメールを使用する場合は、デスクトップ上の「受信トレイ」アイコンをダブルクリック後、次ページの操作3からの手順となります。

1 まず、[Microsoft Exchange]のインストールを行います。
『スタート』→『設定』→『コントロール パネル』の「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックし、『アプリケーションの追加と削除のプロパティ』画面の[Microsoft Exchange]チェックボックスをチェックし、[OK]ボタンをクリックしてください。[Microsoft Exchange]のファイルのコピーを開始します。



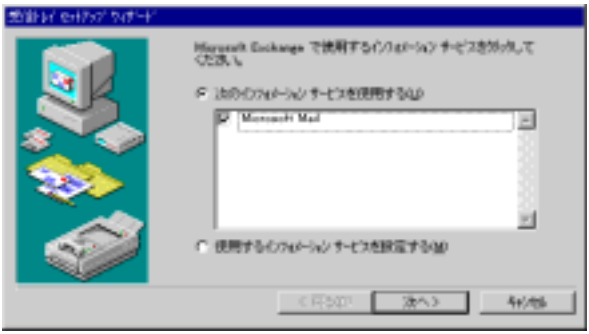
注 意

途中でWindows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
と入力し、画面の指示に従ってください。(FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。)

2 『受信ﾄﾚｲｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。[いいえ]を選択後、[次へ]ボタンをクリックします。



3 「Microsoft Exchange で使用するｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｻｰﾋﾞｽをｸﾘｯｸしてください。」では、使用するインフォメーションサービスを選択してください。
選択後、[次へ]ボタンをクリックしてください。



参考

Windows95のインストール時に「The Microsoft Network」をインストールしていれば、使用するインフォーメーションの一覧に「The Microsoft Network」の項目が追加されています。
また、「Microsoft PLUS!」をインストールしていれば、「ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ」の項目が追加されています。
「The Microsoft Network」及び「ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ」の設定についてはWindows95のマニュアルやヘルプをご覧ください。

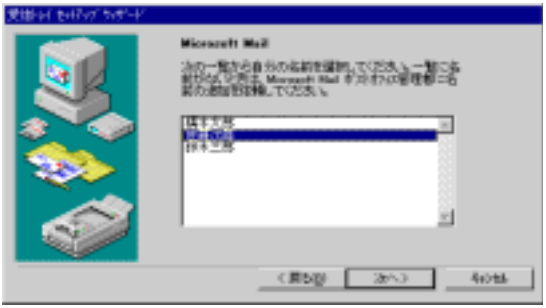
4 「....ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽの場所を指定してください。」では、管理者が設定したポストオフィスの場所（フォルダ）のパスを指定します。（わからない場合は、管理者に確認し、[参照]ボタンで管理者のポストオフィスのパスを指定してください。）



注 意

管理者のポストオフィスのフォルダを共有指定にしていない場合は、ポストオフィスに接続できません。ポストオフィス管理者に確認してください。

5 名前の一覧表示の画面では、自分の名前を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



注 意

名前の一覧に自分の名前がない場合は、ポストオフィス管理者に名前の追加を依頼してください。

6 [ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]入力画面になります。管理者が設定したパスワードを入力してください。パスワードがわからなければ、管理者に確認してください。



注意

パスワードは、管理者が設定した（「・ ユーザーの登録」での手順4(P46)で設定した）パスワードです。

7 「個人用ｱﾄﾞﾚｽ帳のﾊﾟｽを入力してください。」では、個人用のアドレス帳を作成するパスを入力してください。表示の内容でよければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。（変更する場合は、[参照]ボタン等で変更してください。）



注意

個人用アドレス帳とは、ﾒｰﾙの送信する相手の宛先などを書き留めた住所録です。相手の宛先を手入力などせず、マウス操作で簡単に行うためのものです。

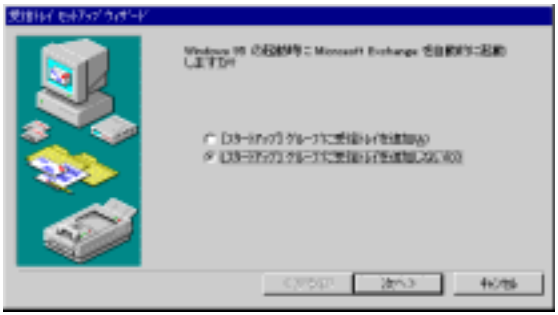
8 「個人用ﾌｫﾙﾀﾞﾌｧｲﾙ(PSTﾌｧｲﾙ)のﾊﾟｽを入力してください。」では、個人用フォルダを作成するパスを入力してください。表示の内容でよければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。（変更する場合は、[参照]ボタン等で変更してください。）



参考

メールの送受信は、まず個人用フォルダを通してメールのやり取りを行います。

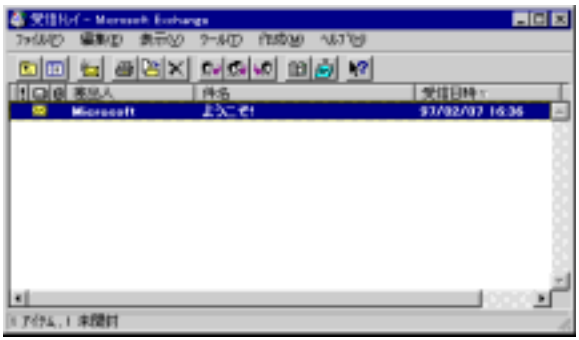
9 「Windows 95 の起動時に Microsoft Exchange を自動的に起動しますか?」では、[ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ]グループに受信ﾄﾚｲを追加する場合（Windows95起動時に自動的に受信トレイを開いてメールを確認する場合）は「...追加」を、追加しない場合は「...追加しない」を選択してください。



10 「ｾｯﾄｱｯﾌﾟ が完了しました。」では、[終了]ボタンをクリックしてください。



11 「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリックすると、Microsoftよりメールが届いています。メールを選択し、ダブルクリックしてメールの内容を確認してみてください。



以上でメールユーザー側の設定は終了です。

・ メールの送受信

それでは、実際にメールの送信及び受信をしてみましょう。まず、送信側でメールを作成・送信し、次に受信側でメールを受信できたか確認を行います。ここでは、佐藤氏から橋本氏へのテストデータ送受信の例で説明しています。

１．メールの送信

1 メールを作成して送信してみましょう。
「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリックして「受信ﾄﾚｲ」画面を起動します。
「受信ﾄﾚｲ」画面の送信メールの作成ボタンをクリックするか、「作成」メニューの「ﾒｯｾｰｼﾞの作成」を選択してメールをまず作成します。



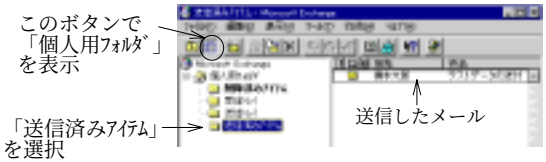
2 メール本文に送信したいメッセージを入力します。
本文入力後、宛先、件名を入力後、送信ボタンをクリックします。メールが送信されます。



参照

メールでは文字だけでなく、絵やファイル等も添付できます。詳細に関しては、ヘルプを参照してください。

3 送信側で「メールは送信済みか」を確認します。「個人用ﾌｫﾙﾀﾞ」での「送信済みｱｲﾃﾑ」を選択します。送信したメールが右に表示されています。



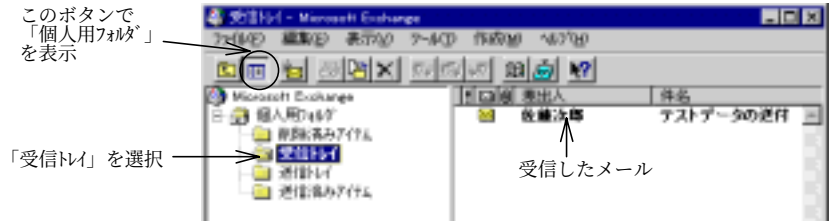
２．メールの受信

1 今度は、受信側での確認です。以下の①、②でメールを受信しているか確認できます。（送信後から受信するまでにかなりの時間がかかる場合もあります。）

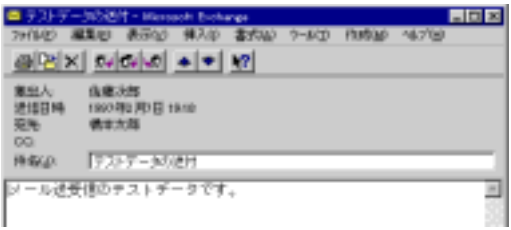
① 「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリックしてメールを受信しているか確認してみます。



② 受信したメールは、[個人用ﾌｫﾙﾀﾞ]の[受信ﾄﾚｲ]を選択しても確認できます。



2 受信したメールをダブルクリックすれば、受信メールの内容を確認できます。



以上でメールの送信及び受信は終了です。

3.3 各種ネットワークシステムへの接続

Windows95では、Microsoft社よりNovel NetWare,Microsoft WindowsNT,IBM LanServer for OS/2,Banyan Vines,DEC Pathworks等にアクセスするためのクライアント機能及びプロトコルが標準装備されています。また、Windows95同士のピア・ツー・ピア接続も簡単に行えます。
また、ネットワークへのログイン作業も、ユーザID及びパスワードをログインしたいネットワーク（サーバ）をすべて同一にしておけば、１つのネットワークにログインすれば、自動的に他のネットワーク（サーバ）にログインできます。

ここでは、

各種ネットワークシステムにクライアントとして接続するための手順

・NetWareサーバへの接続（「3.3.1」(P56)参照）
・WindowsNTサーバへの接続（「3.3.2」(P61)参照）

について説明します。
NetWareサーバ及びWindowsNTサーバにクライアントとして接続する場合は、事前にネットワークシステム管理者にユーザー登録を行ってもらう必要があります。その時点で、「ユーザーID」及び「パスワード」を取得してください。
また、サーバへの接続のためにサーバ名（WindowsNTではドメイン名）も確認する必要があります。詳しくは、ネットワークシステム管理者にご確認ください。

3.3.1　NetWareサーバへの接続

ここでは、NetWareサーバでのWindows95のクライアント設定について説明します。

注 意

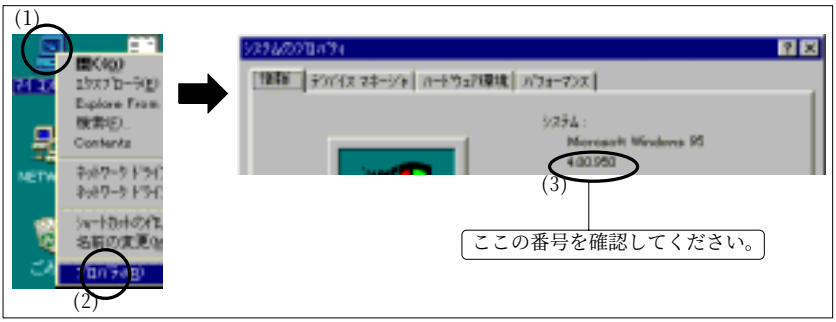
Windows95バージョン4.00.950または950aをお使いの場合
（Windows95のバージョンの確認は、以下を参照してください。）
Microsoftから提供されるNetWareクライアントは、NetWare 3.1xJのバインダリに対応した機能しかありません。NetWare 4.1J/4.11Jから提供されるNetWareディレクトリサービス（NDS）には対応していません。そのため、NetWare 4.1J/4.11Jサーバにログインするためには、サーバ側でバインダリエミュレーションを実行している必要があります。（NetWare 4.1J/4.11Jのインストールでは、自動的にデフォルト設定されています。）
なお、Microsoft社とNovell社よりNetWare 4.1J/4.11JのNDSに対応したクライアントプログラムが、Web等で公開されています。これを利用することもできます。
（**Windows95バージョン4.00.950 Bをお使いの場合**は、NDSに対応していますので特に設定等はありません。）

● Windows95バージョン番号の確認

Windows95のバージョンは、以下の方法で確認できます。
Windows95のバージョンには、4.00.950、4.00.950a、4.00.950 Bがあります。

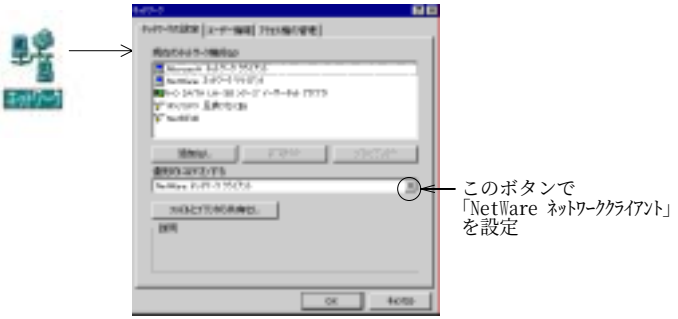
＜確認方法＞

デスクトップ上の「ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンにマウスカーソルを合わせてマウスの右ボタンをクリックし(1)、現れたメニューから「ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」を選択します(2)。
「ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」に表示される番号を確認してください(3)。



• 接続の設定

1 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面が表示されます。
「優先的にﾛｸﾞｲﾝする」は、「NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定してください。



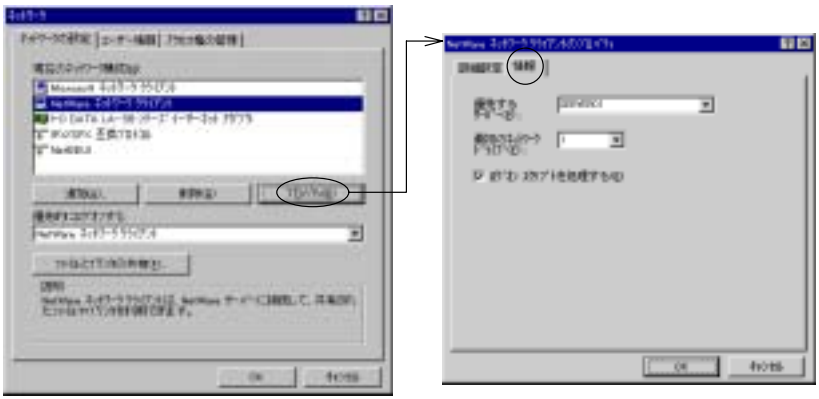
参考

NetWareのみの環境を使用する場合は、『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」には、以下の3つが設定されていれば使用できます。

1. クライアントには「**NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸｸﾗｲｱﾝﾄ**」
2. アダプタには「**I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ**」
3. プロトコルには「**IPX/SPX 互換ﾌﾟﾛﾄｺﾙ**」



2 「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」の「NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックします。『NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面が表示されます。「情報」タブをクリックします。
「優先するｻｰﾊﾞｰ」、「最初のﾈｯﾄﾜｰｸﾄﾞﾗｲﾌﾞ」及び「ﾛｸﾞｲﾝｽｸﾘﾌﾟﾄの処理」の設定を行います。（設定内容に関しては、ネットワークシステム管理者にご相談ください。）
設定後、[OK]ボタンをクリックします。
『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[OK]ボタンをクリックします。
一旦Windows95を再起動します。

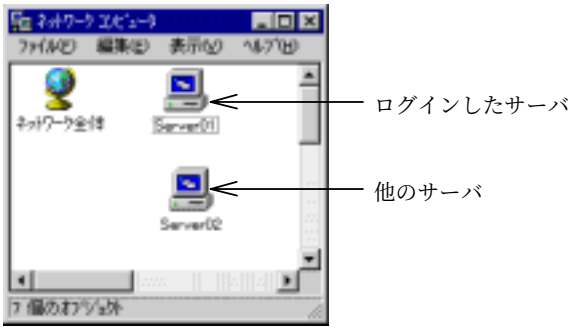


3 再起動後、起動途中で手順2で設定した「優先するｻｰﾊﾞｰ」で指定したログインサーバでの『ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力』画面が表示されます。
ユーザー登録した「ﾕｰｻﾞｰ名」及び「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力後、[OK]ボタンをクリックしてください。クリック後、Windows95の起動を続行します。

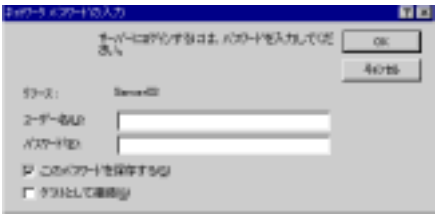


4 起動後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックすると、現在ログインしているサーバが、「ﾈｯﾄﾜｰｸ全体」アイコンの横に表示されています。ログインしているサーバのアイコンをダブルクリックすることでサーバ上で設定されたアクセス権（トラスティ）で許されているファイルやフォルダにアクセスできます。

（画面は、「Server01」サーバが表示されている例）



他のNetWareサーバにアクセスするには、「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」上のログインしたいサーバをダブルクリックします。「ﾕｰｻﾞｰ名」及び「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力し、[OK]ボタンをクリックすればアクセスできます。



・ ネットワークドライブのマップ

ここでは、ドライブポインタが必要なアプリケーションのためのドライブのマッピング方法について説明します。

1 デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックします。
ドライブマッピングを行いたいフォルダを右クリックし、メニュー内の
「ﾈｯﾄﾜｰｸﾄﾞﾗｲﾌﾞの割り当て」を選択します。



2 「ﾄﾞﾗｲﾌﾞ」のところに使用していないドライブを割り当てます。
「ﾛｸﾞｵﾝ時に再接続」のチェックボックスのチェックを行えば、次回そのサーバにログインした時に、そのドライブにマッピングを行います。



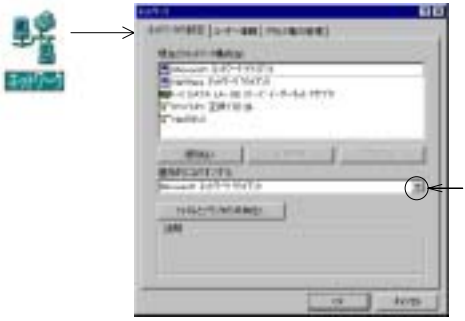
以上でNetWareサーバでのWindows95のクライアント接続の設定は終了です。

3.3.2 WindowsNTサーバへの接続

ここでは、WindowsNTサーバでのWindows95のクライアント設定について説明します。

• 接続の設定

1 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面が表示されます。
「優先的にﾛｸﾞｲﾝする」は、「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定してください。



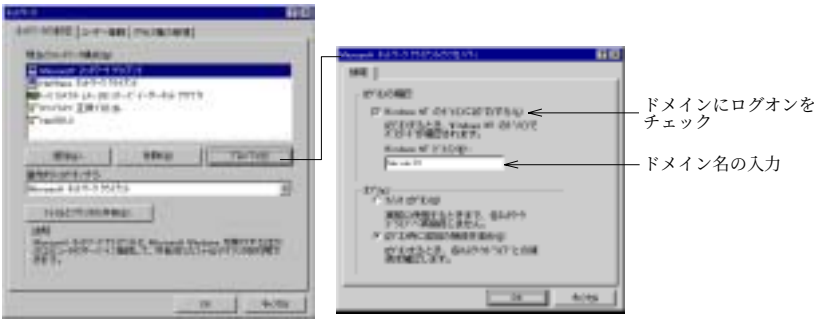
参考

WindowsNTのみの環境を使用する場合は、『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」には、以下の3つが設定されていれば使用できます。

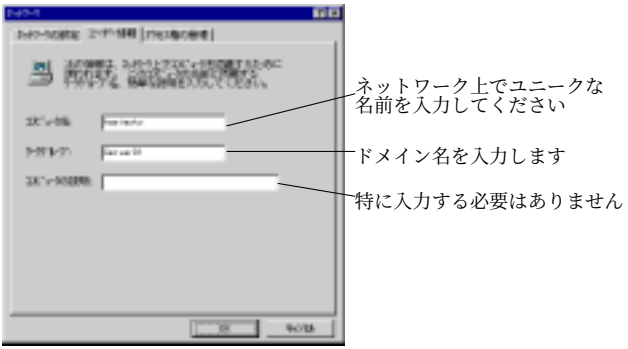
1. クライアントには「**Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ**」
2. アダプタには「**I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ**」
3. プロトコルには「**NetBEUI**」



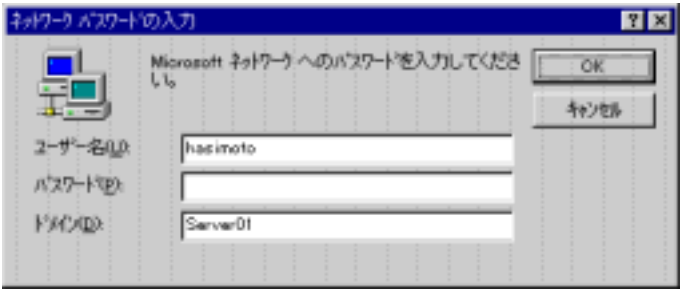
2 「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」の「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックします。『Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面が表示されます。
WindowsNTのドメインに参加する場合は、「ﾈｯﾄﾜｰｸの設定」での「Windows NT のﾄﾞﾒｲﾝにﾛｸﾞｵﾝする」のチェックボックスのチェック、「Windows NT ﾄﾞﾒｲﾝ」名の入力、「ｵﾌﾟｼｮﾝ」の各設定を行います。
（設定内容に関しては、ネットワークシステム管理者にご相談ください。）
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



3 『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「ﾕｰｻﾞ情報」の設定を行います。
「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」、「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」、「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの説明」の各設定を行います。
WindowsNTのドメインに参加する場合、「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」は、手順**2**で設定した「Windows NT ﾄﾞﾒｲﾝ」と同じドメイン名を設定してください。それ以外の場合は、ネットワークを使用するグループで決めたユニークな名前を入力してください。（その他の設定内容に関しては、ネットワークシステム管理者にご相談ください。）

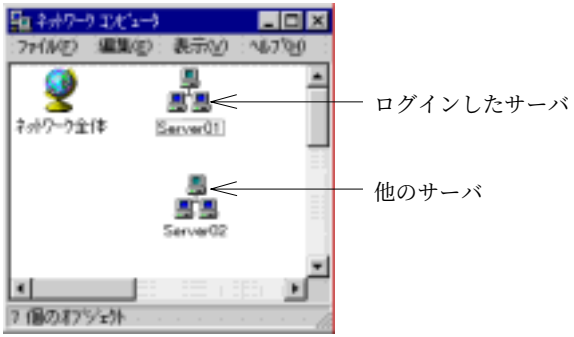


4 再起動後、起動途中で手順**2**で設定した「Windows NT ﾄﾞﾒｲﾝ」名で指定したドメインでの『ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力』画面が表示されます。
ユーザー登録した「ﾕｰｻﾞｰ名」及び「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力後、[OK]ボタンをクリックしてください。クリック後、Windows95の起動を続行します。



5 起動後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックすると、現在ログインしているサーバが、「ﾈｯﾄﾜｰｸ全体」アイコンの横に表示されています。ログインしているサーバのアイコンをダブルクリックすることでサーバ上で設定されたアクセス権（トラスティ）で許されているファイルやフォルダにアクセスできます。

（画面は、「Server01」サーバが表示されている例）



以上でWindowsNTサーバでのWindows95のクライアント接続の設定は終了です。

3.3.3 LANtastic for Windows95へのセットアップ

【2.4 動作確認】(P15)を参照して正常に動作することを確認の上、Windows95を起動してください。【3.1 インストール方法】(P20)を参照して
LA-98シリーズのドライバのインストールを行ってください。
インストール終了後、パソコンを再起動した後に、「LANtastic for Windows95」のインストールを行ってください。

「LANtastic for Windows95」のインストール方法その他詳細は、「LANtastic for Windows95」のマニュアルを参照してください。

第4章 他のOSで使用するには

この章では、第２章で取り付けたLA-98シリーズをMS-DOS,Windows3.1,WindowsNTでの各種NOS環境で使用する場合の設定について説明します。

4.1 MS-DOS及び 日本語Windows3.1へのセットアップ

4.1.1 プラグ＆プレイ対応パソコンへの設定

LA-98シリーズは、割り込み(IRQ)とI/Oポートを使用します。

『プラグ＆プレイ』に対応しているパソコンをWindows3.1で使用する場合は、Windows3.1上の「ｺﾝﾌｨｸﾞﾚｰｼｮﾝ ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ」で、LA-98シリーズが使用する割り込みとI/Oポートを設定する必要があります。

（「ｺﾝﾌｨｸﾞﾚｰｼｮﾝ ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ」は、パソコン本体に添付されています。）

LA-98シリーズをパソコンに取り付ける前に、下記の設定を行ってください。

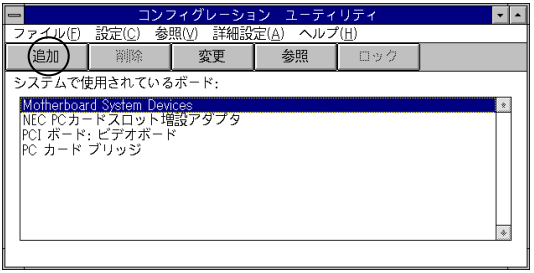
『プラグ＆プレイ』に対応していないパソコンをご使用の場合は、ここの項目を読み飛ばしてください。

1 Windows3.1を起動して『プログラムマネージャ』の中の『プラグ＆プレイ』グループを開き、「ｺﾝﾌｨｸﾞﾚｰｼｮﾝ ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ」をダブルクリックします。

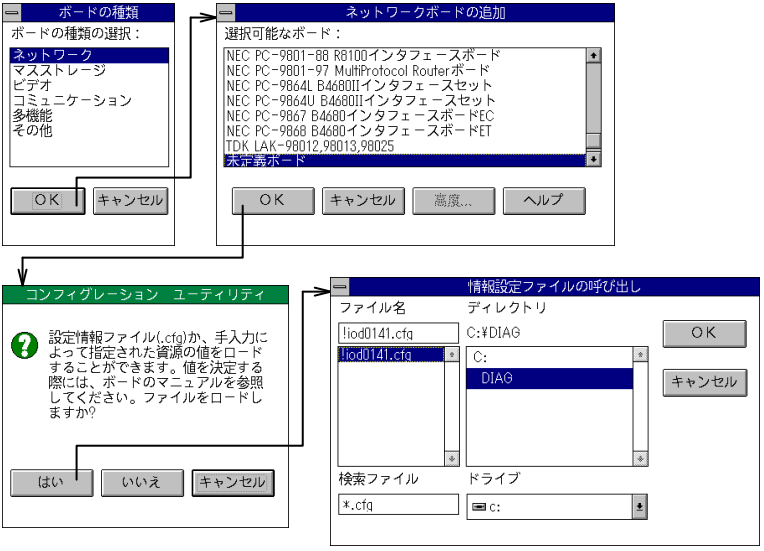


タイトル表示のダイアログが表示されますので、そのまま[OK]をクリックしてください。

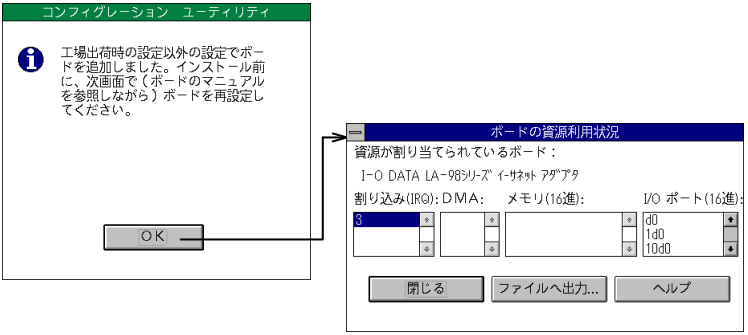
2 『コンフィグレーション　ユーティリティ』の基本画面で[追加]をクリックします。



3 『ボードの種類』画面では「ネットワーク」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
『ネットワークボードの追加』画面での「選択可能なボード」では「未定義ボード」を選択し[OK]ボタンをクリックします。
次に情報設定ファイルをロードしますので、[はい]ボタンをクリックします。
「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、『情報設定ファイルの呼び出し』でディスクを挿入したドライブ指定を行います。「diag」ディレクトリ内の「!iod0141.cfg」を選択して[OK]ボタンをクリックします。



4 出荷時設定以外でボードの追加が行われる場合は、確認ダイアログの次に『ボードの資源利用状況』画面が表示されます。
この利用状況はLA-98シリーズを取り付け後に【2.4 動作確認】(P15)で設定する必要があります。紙などにメモしてください。
[閉じる]ボタンをクリックしてください。



注 意

「ボードの資源利用状況」では、「割り込み」は IRQ 表記になっています。LA-98シリーズのボードの設定では INT 表記になっていますので間違えないようにしてください。(「・IRQ/INT対応表」(P17)参照)

5 『コンフィグレーション　ユーティリティ』の基本画面に戻ったら
「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」が追加されていることを確認し、
『コンフィグレーション　ユーティリティ』を終了します。
システム構成を保存し、確認ダイアログを閉じます。
Windows3.1を終了して電源を切り、LA-98シリーズの取り付けを行います。
（【2.3 取り付け】(P10)参照）



4.1.2 NetWare 3.11J/3.12J/4.1J/4.11Jへのｾｯﾄｱｯﾌﾟ

NetWareサーバでLA-98シリーズの設定をする場合は本ページ以降を、NetWareクライアントでLA-98シリーズの設定をする場合は「● クライアントの設定」72ページ以降を参照してください。

● サーバの設定

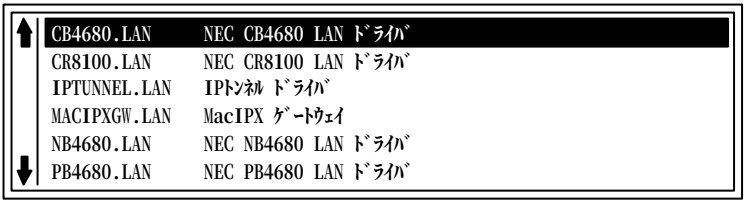
ドライバをインストールする前に、MS-DOS上で診断プログラムを動作させてアダプタが正常である事を確認してください。

注 意

LA-98シリーズは、MS-DOS上で診断および設定プログラムを動作させてあらかじめリソースの設定を行ってください。（【2.4 動作確認】の3での「現在のＬＡ－９８設定値」(P16)参照）
この時の設定（「I/Oポート」のみ）はサーバのインストール時に再度設定する必要がありますので、メモしておいてください。

▪ NetWare4.1J/4.11Jサーバのインストール時の場合

1 ネットワークドライバの設定画面で[Ins]キーを押し、「リストにないドライバ」のインストールを行います。



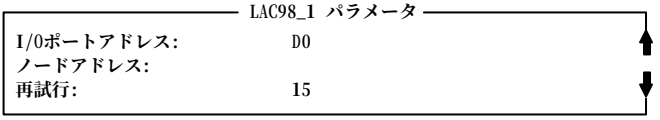
リストにないドライバのインストール<Ins>

2 「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、スキャンするパスと同じならそのまま▪キーを押し、異なる場合は[F3]キーを押してディレクトリパス（フロッピィディスクドライブ名のみ）を入力してください。

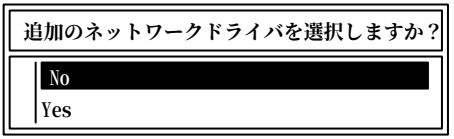
3 『インストールするドライバの選択』画面で以下のように表示されていることを確認して、NetWare 4.1Jのドライバをご利用になる場合は②を、NetWare 4.11Jのドライバをご利用になる場合は①を選択してください。



4 次の画面で予めLA-98シリーズに設定した「I/Oポート」をパラメータに設定してください。(【2.4 動作確認】(P15)参照)



5 さらにLAシリーズを追加する場合は、「追加のネットワークドライバを選択しますか？」の画面で「Yes」を選択すると**1**～**5**を繰り返します。



以上で設定は終了です。

▪ NetWare4.1J/4.11Jサーバへ追加設定する場合

1 システムコンソールから

xxxx:LOAD INSTALL　　（下線部入力）

と入力し、「ドライバオプション」-「ネットワークドライバの設定」-「追加ドライバの選択」を選択してください。

2 後は、「▪ NetWare4.1J/4.11Jサーバのインストール時の場合」(P69)を参照してインストールしてください。追加ドライバに対する操作で「追加ドライバの選択」を選択してください。

▪ NetWare3.12Jサーバの場合

1 サーバマシンでMS-DOSを起動してください。（サーバマシンですでにNetWareが起動している場合は、ユーザーに通知してからシャットダウンしてください。）

2 「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、フロッピィドライブのnetware\server\4.1Jディレクトリから NetWare3.12Jサーバがインストールされているディレクトリ（通常は server.312）に必要なNetWareサーバ用ドライバをコピーしてください。

```
copy c:\netware\server\4.1J\lac98.lan a:\server.312
```

3 NetWare3.12Jサーバを起動して、システムコンソールから
xxxx:LOAD INSTALL　　（下線部入力）
と入力してください。

4 表示されているメニューから「ｼｽﾃﾑｵﾌﾟｼｮﾝ」-「AUTOEXEC.NCFﾌｧｲﾙの編集」を選択し、下記の2行を追加してください。
（例:ｲｰｻﾈｯﾄ802.2[ﾌﾚｰﾑﾀｲﾌﾟ]を使用する場合）

```
load a:\server.312\lac98 port=d0 frame=ethernet_802.2 name=lac98_1_
bind ipx to lac98_1_e82 net=xxxx
```

（xxxxはNetWareの環境によって異なります。）
下線の部分は同じにしてください。

以上でインストールは終了です。NetWare3.12Jを再起動すると有効になります。

注 意

1) NetWare3.12Jサーバの設定は複雑です。詳細はNetWareなどの取扱説明書を参照してください。
2) autoexec.ncfに変更を加えた場合は、その環境を有効にするために必ずNetWare3.12Jサーバを再起動してください。

● クライアントの設定

すでにNetWareのクライアント環境が存在し、LA-98シリーズ用に変更を加える場合は、lasetup.exeを起動し、「ＮｅｔＷａｒｅドライバのコピー」を選択してセットアップを行ってください。

NetWareで使用するNET.CFGは、lasetup.exeを起動し、「ＮｅｔＷａｒｅクライアントのセットアップ」を使用してインストールを行うことにより自動的にLA-98シリーズのI/Oポートアドレスが記述されます。その他の設定変更に関しては（FIRST NETWORK DRIVEはデフォルトでHドライブに設定されています。）、お手元のエディタで行ってください。

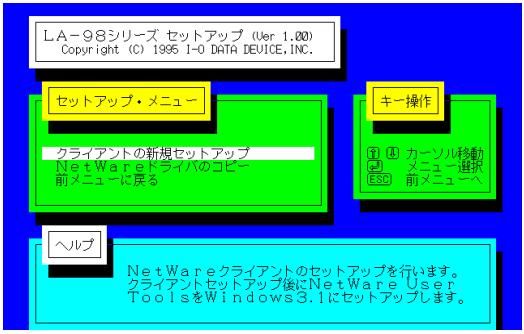
参考

1)サーバへの接続にはネットワークシステム管理者が決めた仕様に伴い、NET.CFGの変更が必要になる場合があります。詳細はネットワークシステム管理者にご相談ください。
2)NetWareに添付されているインストールプログラムを使用する場合、「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、ドライバの読み込み先は **C:\netware\dosodi**（フロッピィディスクドライブがＣドライブの場合）と指定してください。

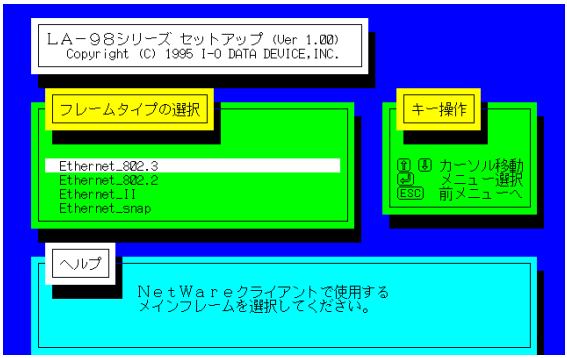
MS-DOSの環境のみで使用する場合は以下を、Windows3.1とMS-DOSの環境で使用する場合は「Windows3.1とMS-DOSの環境で使用する場合」(P74)を参照してください。

MS-DOSの環境のみで使用する場合

1 lasetup.exeを起動して「ＮｅｔＷａｒｅクライアントのセットアップ」－「クライアントの新規セットアップ」を選択し、画面の指示に従ってセットアップを行ってください。



2 「フレームタイプの選択」は、接続するNetWareサーバのタイプに合わせてください。
指定のディレクトリ（デフォルトはPLANT）にNetWareのドライバと起動用バッチファイル［startnet.bat］がインストールされます。



参考

フレームタイプに関する詳細はネットワークシステム管理者にご相談ください。

3 「自動起動文の登録」で「追加を行わない」を選択した場合、autoexec.batに直接起動用のコマンドを記述するか、DOSプロンプトからstartnetと入力してください。
また、「追加を行う」を選択した場合、**autoexec.bat**に
@CALL A:\PLANT\STARTNET.BAT（指定したﾃﾞｨﾚｸﾄﾘがPLANTの場合）
が追加されます。
（MS-DOS Ver3.3XXをご使用の場合は、
SET NWLANGUAGE=NIHONGO
COMMAND /C A:\PLANT\STARTNET.BAT (指定したﾃﾞｨﾚｸﾄﾘがPLANTの場合)
と追加されます。）
自動起動文の有無に関わらず、**config.sys**にはLASTDRIVE=Z、**autoexec.bat**にはPATH=A:\PLANT;%PATH%(指定したﾃﾞｨﾚｸﾄﾘがPLANTの場合)が追加されます。

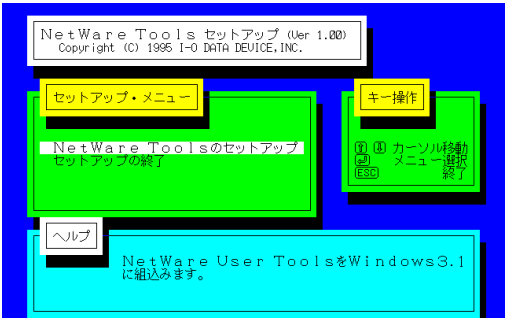
参考

サーバへの接続にはネットワークシステム管理者が決めた仕様に伴い、コマンドオプションが必要な場合があります。詳細はネットワークシステム管理者にご相談ください。

以上でインストールは完了です。セットアップを終了し再起動してください。

Windows3.1とMS-DOSの環境で使用する場合

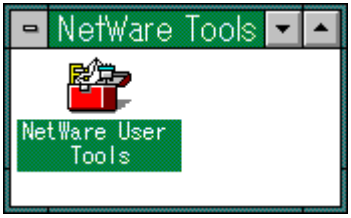
「MS-DOSの環境のみで使用する場合」(P72)と同様な作業を行った後、「NetWare User Toolsのセットアップ」を選択し、画面の指示に従って作業を行ってください。



参 考

「NetWare User Tools」のみをインストールする場合は、「NetWare User Tools用」ディスクからlawin98.exeを起動してください。

インストールが終了するとWindows3.1の『プログラムマネージャ』に「NetWare Tools」のグループが作られます。

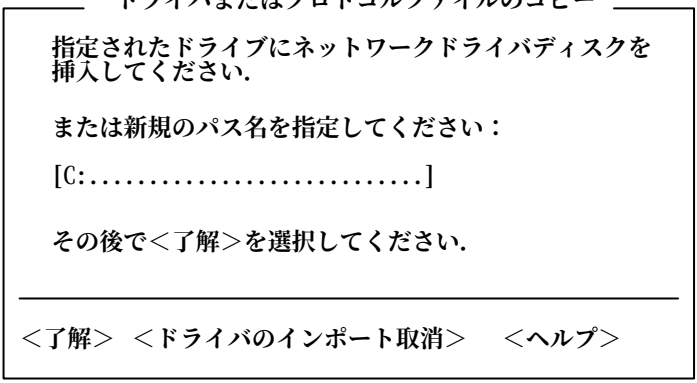


参 照

NetWare User Toolsの使用方法に関してはNetWareのマニュアル及びNetWare User Toolsのヘルプを参照するか、ネットワークシステム管理者にご相談ください。

4.1.3 Microsoft LAN Manager V2.1xへのセットアップ

LAN Managerのsetup.exeを起動してください。
「表示/変更」－「ネットワークドライバの登録」－「新規設定」－「その他のドライバ」を順に選択してください。



「ドライバまたはプロトコルファイルのコピー」画面が表示されます。
「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、挿入したドライブ名のみを入力し、＜了解＞を選択してください。
　例）C:　（下線部入力 :[フロッピィディスクドライブがCドライブの場合］）
次に「I-O DATA LA-98 Ethernet Adapter」が表示されている事を確認してください。
「ネットワークプロトコル」で任意のプロトコルを選択して「ネットワークドライバ設定」で「了解」－「保存」でインストールは終了です。



CD-ROMドライブを使用している場合は、autoexec.batの
「@REM ======= LANMAN 2.1……」で囲まれた領域を
「mscdex.exe」の登録箇所より先に移動してください。

4.1.4 Personal NetWare J1.0へのセットアップ

Install.exeでインストールする際に、「１次ネットワークインタフェースカード」－「OEM製NetWareインタフェースカードの設定」を選択後、「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、挿入したドライブとディレクトリを指定します。

例）フロッピィディスクドライブがCドライブの場合

C:\netware\dosodi　（下線部入力）

後は画面の指示に従ってインストールを継続してください。

詳細はPersonal NetWare J1.0のマニュアルを参照してください。

4.1.5 LANtastic 6.0へのセットアップ

LANtasticのInstall.exeでインストールする際に「追加機能の選択」－「インストール処理の継続」選択後、「NDISサポート　ネットワークアダプタ」を選択します。「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクを入れたドライブとディレクトリを指定します。

例）フロッピィディスクドライブがCドライブの場合

C:\lantast　（下線部入力）

後は画面の指示に従ってインストールを継続してください。

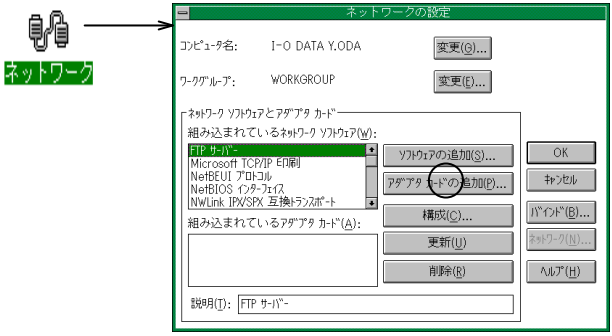
詳細はLANtasticのマニュアルを参照してください。

4.2 日本語WindowsNT3.5xへのセットアップ

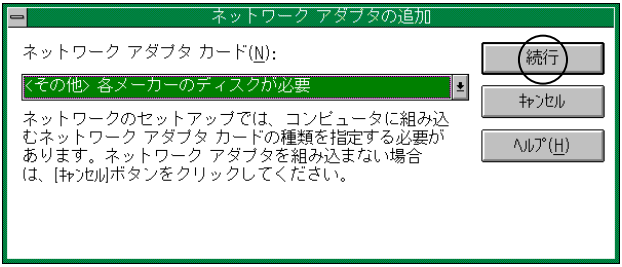
注 意

MS-DOSの起動ディスクを準備し、MS-DOSを起動してください。【2.4 動作確認】(P15)を参照して正常に動作することを確認の上、WindowsNT3.5xを起動します。

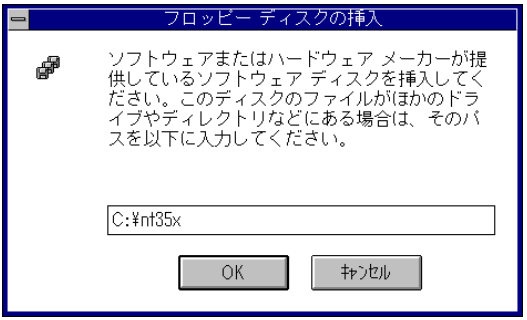
1 「メイン」→「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、『ネットワークの設定』画面の「ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｶｰﾄﾞの追加」ボタンをクリックしてください。



2 『ネットワーク アダプタの追加』画面の「ネットワーク アダプタ カード」の項目で「<その他>各メーカーのディスクが必要」を選択し、[続行]をクリックしてください。



3 『フロッピーディスクの挿入』画面で「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクのパス指定を行います。
例：C:\nt35x　（下線部入力［フロッピィドライブがCドライブの場合］）



4 『OEM オプションの選択』画面で「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」と表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

5 『I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｾｯﾄｱｯﾌﾟ』画面で、ボードの設定にあわせてリソースを設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

6 「コントロールパネル」－「ﾈｯﾄﾜｰｸ」画面でWindowsNT3.5xのマニュアルに従って各種のﾈｯﾄﾜｰｸ構成を設定してください。

参考

WindowsNT3.5xの「ﾈｯﾄﾜｰｸ」、「ｻｰﾊﾞ」、「FTPｻｰﾊﾞ」、「ﾌｧｲﾙﾏﾈｰｼﾞｬ」、「ﾕｰｻﾞﾏﾈｰｼﾞｬ」の設定により、WindowsNT3.5x同士の「ピア・ツー・ピア」接続、「NetWareクライアント」接続、「WindowsNT3.5xクライアント」接続などが可能になります。詳細はWindowsNT3.5xのマニュアルをご覧頂くか、ネットワークシステム管理者にご相談ください。

4.3 日本語WindowsNT4.0へのセットアップ

注 意

MS-DOSの起動ディスクを準備し、MS-DOSを起動してください。【2.4 動作確認】(P15)を参照して正常に動作することを確認してください。また、【2.4 動作確認】時に設定した「I/O ﾎﾟｰﾄ」及び「割り込み」はWindowsNT4.0への設定時に必要となりますので、必ずメモに取っておいてください。

LA-98シリーズを取り付ける前にWindowsNT4.0のネットワークの設定を既に終了している場合はアダプタの追加のみの手順となります。アダプタの追加のみの場合は、網掛けの項目のみをご覧ください。

1 WindowsNT4.0を起動します。

2 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックして開きます。別のネットワークカード等がインストールされている場合は、[アダプタ]タブをクリックして、[追加]ボタンをクリックしてください。（ネットワークがインストールされていない場合は、[Windows NT ネットワークがインストールされていません。インストールしますか ?]と表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。）

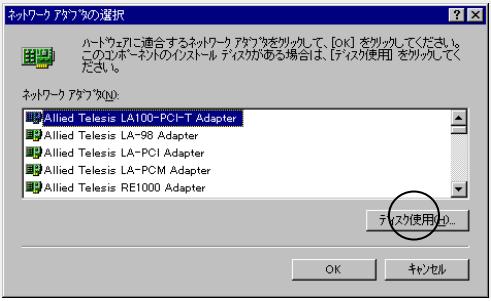
3 『ﾈｯﾄﾜｰｸｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面で、「ﾈｯﾄﾜｰｸに接続」がチェックされている事を確認して、[次へ]ボタンをクリックしてください。



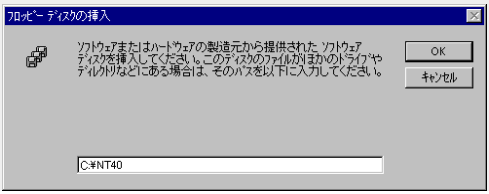
4 検索の画面が表示されます。[一覧から選択]ボタンをクリックしてください。



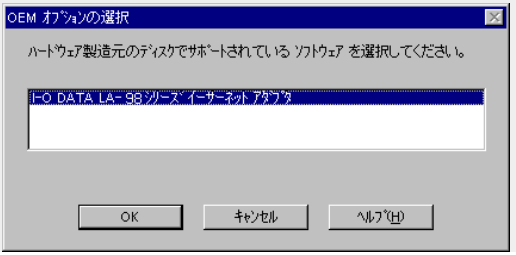
5 アダプター一覧が表示されます。右下の[ディスク使用]ボタンをクリックしてください。



6 『ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸの挿入』画面が表示されます。
「LA-98シリーズサポートソフト」ディスクをフロッピードライブに挿入します。挿入後、フロッピードライブがC:の場合は「C:\NT40」と入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。



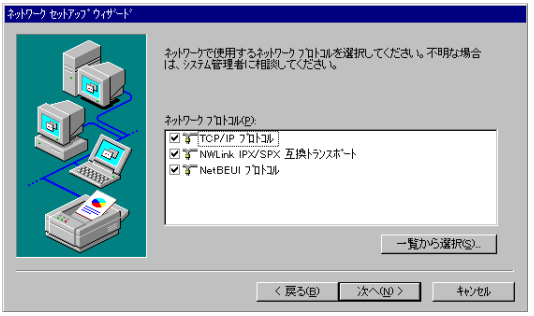
7 『OEM ｵﾌﾟｼｮﾝの選択』画面では、「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞｲｰｻﾈｯﾄｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。



8 「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞｲｰｻﾈｯﾄｱﾀﾞﾌﾟﾀ」のチェックボックスがチェックされているのを確認し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



9 使用する「ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾛﾄｺﾙ」を指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

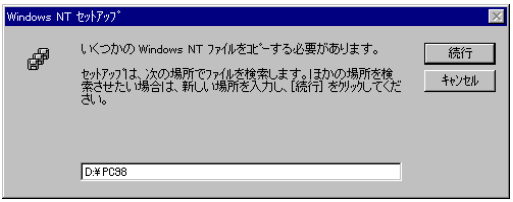


10 使用する「ﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ」を指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

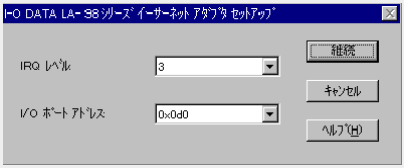


11 「選択されたﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾎﾟｰﾈﾝﾄとｼｽﾃﾑに必要なﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾎﾟｰﾈﾝﾄをｲﾝｽﾄｰﾙします。.....」と表示されますので、[次へ]ボタン をクリックし、それぞれのコンポーネントを設定してください。設定の詳細については、WindowsNT4.0の取扱説明書をご覧になるか、またはネットワーク管理者にご相談ください。

12 「いくつかのWindows NT ﾌｧｲﾙをｺﾋﾟｰする必要があります。」と表示されます。WindowsNTのCD-ROMを挿入し、「D:\PC98」(CD-ROMドライブがDドライブの場合)と入力して[OK]ボタンをクリックしてください。



13 リソース設定の画面が表示されます。ボードの設定に合わせてリソース(IRQやI/Oﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ)を設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。
別のネットワークなどがインストールされている状態でLA-98シリーズを追加した場合の作業はこれで完了です。他に必要なネットワークの設定を行ったあと、画面の指示にしたがって再起動してください。



注 意

【2.4 動作確認】(P15)で設定する「割り込み」はINT表記になっています。WindowsNTで設定する「割り込み」はIRQ表記になっていますので間違えないようにしてください。(「・INT/IRQ対応表」(P17)参照)

14 ネットワークのバインドを設定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



15 「ﾈｯﾄﾜｰｸを起動する準備が整いました。」と表示されますので、[次へ]ボタンをクリックしてください。

16 「ﾄﾞﾒｲﾝ」または「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」を設定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



17 「このｺﾝﾋﾟｭｰﾀにﾈｯﾄﾜｰｸがｲﾝｽﾄｰﾙされました。.....再起動しなければなりません。」と表示されます。[完了]ボタンを押して、再起動してください。

以上でインストールは完了です。

付録 1　困った時には

LA-98シリーズが異常になる理由は様々です。（ネットワーク回線が接続されていないなど、ユーザーによって容易に改善できる場合もあります。）
この章では、個々の共通のトラブルを解決するヒントを提供します。

● 自己診断中のトラブル

MS-DOS上で動作する lasetup.exeの「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」でLA-98シリーズの診断とネットワーク回線のチェックが行えます。
インストール時のトラブルの多くは、各種デバイスドライバとのパソコン資源の競合によって発生します。
インストール時の障害を追求するための一番良い方法は、パソコンのCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを使用しないで起動することです。
MS-DOS6.x以降の場合は、DOSの起動時に［F5］キーまたは［Shift］キーを押しながら、パソコンを再起動してください。そうでなければ、起動可能なシステムディスクを作成するか、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATを他の名前に改名して、パソコンを再起動してください。

1. 非シールドツイストペア（UTP）接続で、アダプタ異常という結果になる。
   Lk(リンク)LEDインジケーターは、OFFになる。
   電源を入れた直後から画面に何も表示されない。
2. アダプタルーティングの診断テストは、外部ループバックテストの異常という結果になる。

原因 10BASE-Tのツイストペア接続に異常がある。

対処 RJ-45接続が外れていないか、ケーブルの種類（クロスケーブルとストレートケーブル）が間違っていないかを調べてください。確認後システムを再起動し、再び診断プログラムを動かしてテストしてください。

1. BNC接続で、アダプタ異常という結果になる。
   Tx(送信)LEDインジケータが不規則に点滅する。
2. アダプタルーティングの診断テストは、外部ループバックテストの異常という結果になる。

原因 10BASE2の同軸ケーブル接続に異常がある。

対処 BNCへの接続が外れていないか、ネットワークセグメントの両方の終端が適切に終端処理（50オームのターミネータでネットワークセグメントの端末を閉じます。）されているかを調べてください。確認後システムを再起動し、再び診断プログラムを動かしてテストしてください。

アダプタ異常。「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」でハードウェア設定やハードウェア診断ができない。

原因 ケーブルの接続が悪い。

対処 RJ-45接続を使用している場合は、接続が緩んでいるまたはケーブルの種類（クロスケーブルとストレートケーブル）が間違っていないかネットワーク回線を調べてください。

原因 LA-98シリーズが拡張スロットに正しく取り付けられていない。

対処 LA-98シリーズがパソコンの拡張スロットに確実に装着されているか調べてください。

原因 パソコンの拡張スロットに、異常がある。

対処 トラブルが起きているLA-98シリーズを別の拡張スロットに取り付けるか、他のパソコンに取り付け、動作テストを行ってください。
もし、これでトラブルが解決される場合は、トラブルが起きているパソコン本体の拡張スロットに異常があることになります。ネットワークシステム管理者またはパソコンの販売店にご相談ください。

LA-98シリーズの環境設定の後にパソコンが異常になる。

原因 パソコン環境が競合している。

対処 I/Oポートアドレスと割り込み（INT[IRQ]）が他の周辺機器と競合していないかを調べてください。
パソコンで使用しているI/OポートアドレスがLA-98シリーズと重なるならば、LA-98シリーズのI/Oポートアドレスを別の設定にしてください。
また、RJ-45接続を使用している場合は、接続の緩みやケーブルの種類（クロスケーブルとストレートケーブル）が間違っていないか回線を調べてください。



注 意

【2.4 動作確認】(P15)で設定する「割り込み」はINT 表記になっています。併用する他の周辺機器の「割り込み」がIRQ 表記になっている場合は間違えないようにしてください。(「・INT/IRQ対応表」(P17)参照)

● Windows上でのトラブル

Windows95及びWindows3.1でパソコンが異常になる。

原因 LA-98シリーズのI/Oポートアドレスがx0D2hに設定されている。

対処 Windows95及びWindows3.1の仕様により、I/Oポートアドレスが競合しています。LA-98シリーズのI/Oポートアドレスをx0D2h以外に設定してください。

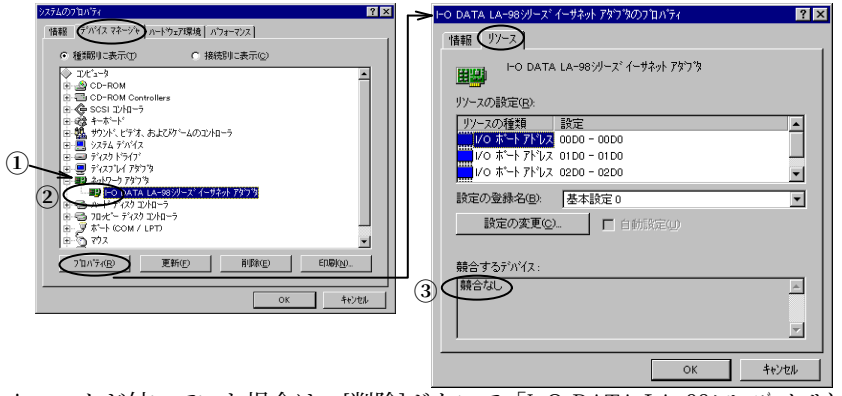
Windows95起動途中などでアダプタが異常のエラーとなる。その他Windows95上でLA-98シリーズが正常に動作しない。

原因 LA-98シリーズのリソース（「I/O ﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」、,「割り込み」）の設定が間違っている。

対処 以下の手順でリソースの確認及び変更を行ってみてください。

① Windows95起動後、『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、「ｼｽﾃﾑ」アイコンをダブルクリックします。『ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾃﾞﾊﾞｲｽﾏﾈｰｼﾞｬ」タブで「ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾀﾞﾌﾟﾀ」をダブルクリックします。

② 表示されている「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」をクリックし、「ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」ボタンをクリックします。「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」の頭に、！マークが付いていないことを確認してください。

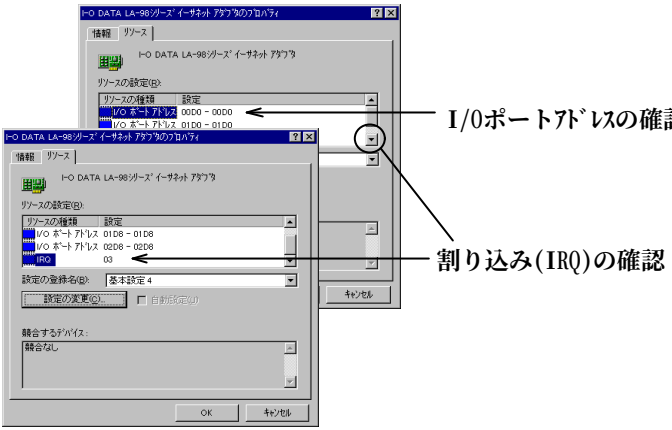


！マークが付いていた場合は、[削除]ボタンで「I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を一旦削除後、再度「3.1」を参照してLA-98シリーズのドライバをインストールしてみてください。

③ [ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックし、『I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾘｿｰｽ」で、競合するデバイスがないことを確認してください。
競合している場合は、リソースを変更してみてください。
リソースの変更は、次ページの「・リソースの変更」を参照してください。

！マークも競合するデバイスもない場合は、設定しているリソースがlasetup.exeで設定しているリソースと異なっている場合があります。
現在のリソースを確認してください。(以下の④、⑤)

④ 「I/O ﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」及び「割り込み(IRQ)」の設定値を確認してください。確認後、メモなどに書き留めておいてください。
[ｷｬﾝｾﾙ]ボタン等で設定を全て終了し、一旦Windows95を終了してください。



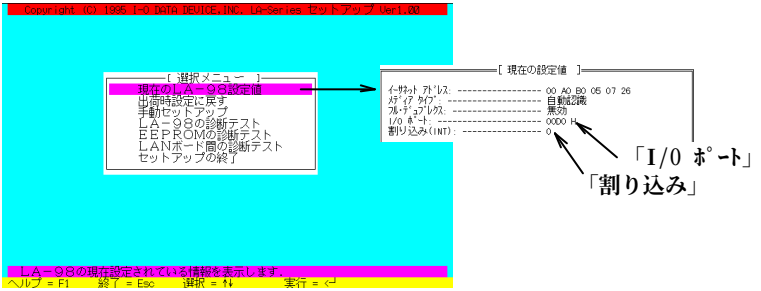
⑤ 次にlasetup.exeでの設定値を確認します。「2.4 動作確認」を参照し、「現在のＬＡ－９８の設定値」で「I/Oﾎﾟｰﾄ」,「割り込み(INT)」を確認します。先ほど④でメモした設定値とあっているか確認してください。
違っている場合は、「手動セットアップ」で設定値を合わせてください。

注 意

「2.4 動作確認」(P15)に設定する「割り込み」は INT 表記になっています。Windows95で設定する「割り込み」はIRQ 表記になっていますので間違えないようにしてください。

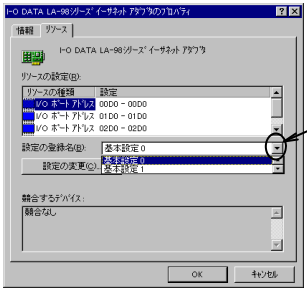
INT 表記	INT 0	INT 1	INT 2	INT 3	INT41	INT42	INT 5	INT 6
IRQ 表記	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 9	IRQ10	IRQ11	IRQ12	IRQ13

「現在のＬＡ－９８の設定値」画面

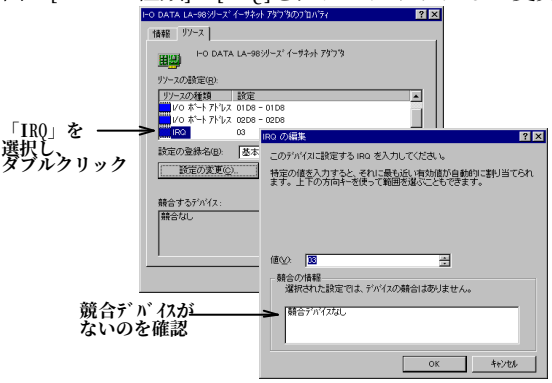


・リソースの変更

1。「I/O ﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」の変更は、『I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾘｿｰｽ」で「設定の登録名」の基本設定の選択で変更できます。



2.「割り込み(IRQ)」の変更は、『I-O DATA LA-98ｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の[ﾘｿｰｽの種類]の[IRQ]をダブルクリックして変更できます。



付録2 ネットワークの仕様及び接続方法

- 10BASE-T

ハブと非シールドツイストペアケーブルを用い、各ワークステーションを接続します。また、LANアダプタボードとハブ間（ハブとハブ間［デイジーチェーン接続］）の非シールドツイストペアケーブル長は最大100mです。ネットワークシステム全体で接続できるワークステーションの最大数は1024台までです。（IEEE802.3規格）



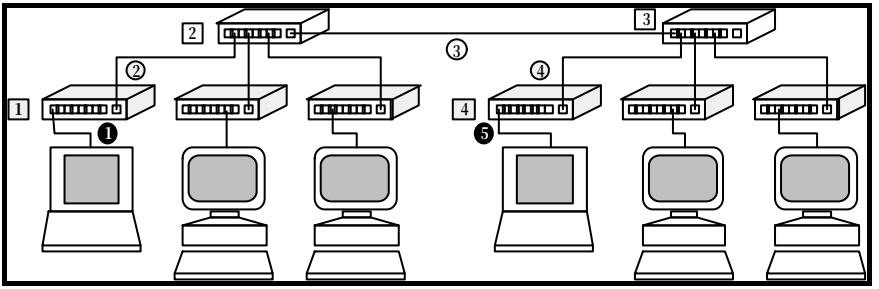
参考

パソコン２台だけのネットワーク（ピア･ツー･ピア型など）を行う場合は、特殊なケーブル（非シールドツイストペアのクロスケーブル）を使用することにより、ハブ無しで直接接続することができます。
（この場合もケーブル長は、最大100mとなります。）

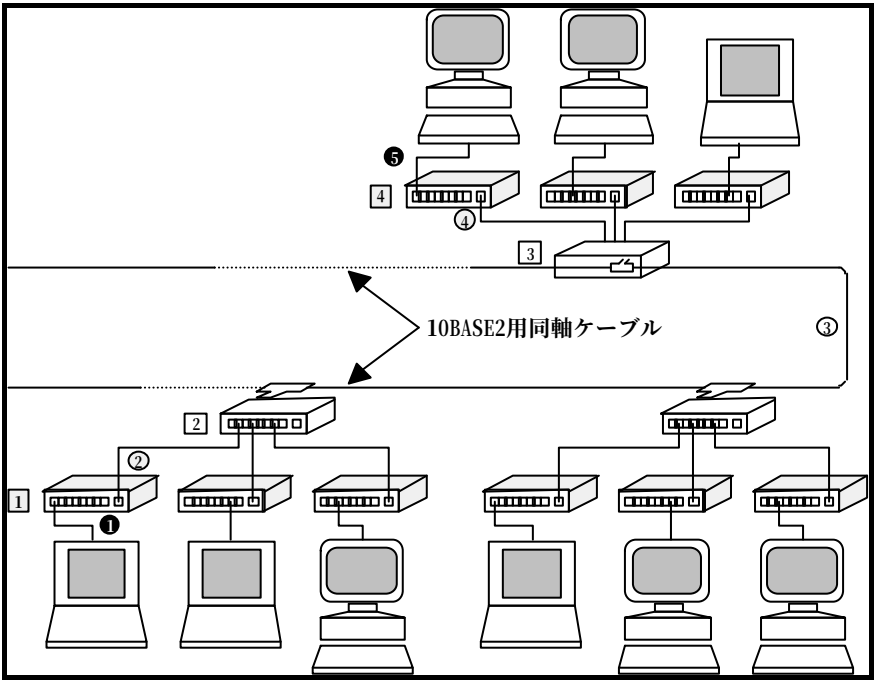
デイジーチェーン接続の概念図

デイジーチェーンの接続方法については、ハブの取扱説明書をご覧ください。

10BASE-Tのみで接続する場合



10BASE-Tと10BASE2を組み合わせた場合



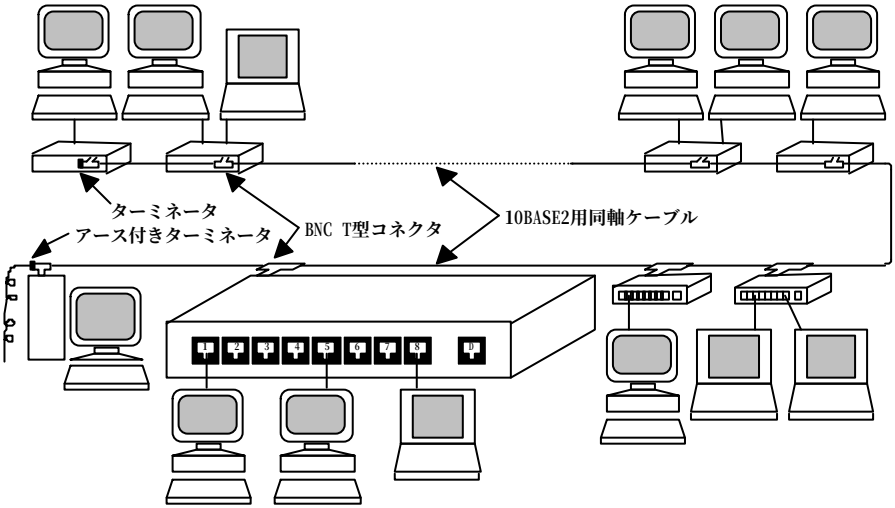
注 意

各ワークステーション（端末のパソコン）の最大距離は、4階層のハブ（5階層のケーブルセグメント）となります。

▪ 10BASE2

BNC T型コネクタと10BASE2用同軸ケーブルを用い、1セグメント（10BASE2のターミネータで処理された終端間）に最大30台（LANアダプタボードやハブなど）まで接続することができます。1セグメントの長さは、最大185m（10BASE2用同軸ケーブルの長さは、0.5mの整数倍。）です。また、10BASE2用リピータを用いることにより最大5セグメントまで拡張できます。ネットワークシステム全体で接続できるワークステーションの最大数は1024台までです。（IEEE802.3規格）

BNCポートの使用について
弊社製8ポート･スマートハブLA-HB8のBNCポートを使用して他のBNCポート付きハブやLANアダプタボードと接続することができます。
10BASE2用同軸ケーブルで各ハブやLANアダプタボードを接続してください。（同軸ケーブルの終端はターミネータで処理してください。）



注 意

10BASE2で接続する場合は、事前にネットワークシステム管理者に相談の上、ネットワークシステムをシャットダウンしてから行ってください。

付録3 用語解説

AUI（エーユーアイ）

(Attachment Unit Interface)。IEEE 802.3で規格されている15ピンのインターフェイスで、サーバや他のデバイスを10BASE5 Ethernetトランシーバ またはMedia Access Unit(MAU)に接続します。

BNC（ビーエヌシー）

10BASE2用同軸ケーブルを接続するために使用されるコネクタ。半回転ひねってロックする口がある。

Broadcast（ブロードキャスト）

ネットワーク上の全ての端末にメッセージを送るプロセス。

Collision（コリジョン）

２つのパケットが同時にネットワーク上に送出され、相互干渉を起こしてデータが壊れる現象。干渉によるパケットの破壊はボードによって検出され再送信される。

CSMA/CD（シーエスエムエー／シーディ）

(Carrier sense multiple access with collision detection)。
Ethernetで使用されるネットワーク形式。ネットワークのアクセス制御をノード毎に分担することが特徴。

Ethernet（イーサネット）

米国ゼロックス社、ディジタル・イクイップメント社、インテル社によって開発されたネットワーク通信方式。baseband伝達、CSMA/CDアクセス、論理的なバストポロジーと、当初50Ω同軸ケーブルを使用して構成されていた。
後にIEEE 802.3として規格化され、光ファイバー、broadband、非シールドツイストペアやレピータ等、物理層と伝送媒体の追加機能が定義された。

Frame（フレーム）

データに制御情報を加えたビットのグループ。
一般にデータリンク層(OSIモデルの第２層)で定義されるデータの伝送形式。

IEEE 802.3 standard（アイトリプルイー802.3スタンダード）

ローカルエリアネットワークの物理的、電気的特性の標準規格の１つで、
IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers)によって規格化された。

Loopback（ループバック）

診断プログラムのテスト項目のひとつ。伝送媒体を通じてテスト機自身に信号を送り、信号受信を確認する方式。

MPX Technology（エムピーエックス テクノロジー）

Accton社が開発したEthernetテクノロジー。LA-98シリーズのインストール、環境設定や、スループット、ハードウェアのチューニングとソフトウェアパフォーマンスを飛躍的に改善し、トラブル回避と障害追求を容易にする独自技術。

NetWare（ネットウェア）

ノベル社のネットワークオペレーティングシステム(異なったプラットホーム間の通信・データ共有を実現するシステム)。
NetWare Core Protocol(NCP)、Internetwork Packet Exchange(IPX)、そしてSequential Packet Exchange(SPX)のプロトコルを使用する。

NIC（ニック）
Network Interface Card

LANアダプタボードの事を指す。

OSI（オーエスアイ）
Open Systems Interconnection

ISO(International Organization for Standardization)によって発表され、CCITT(Comite Consultatif International Telegraphique et Telephoniqueは現在ITU-T[International Telecommunication Unon-Telecommunication standardization sector]となった。)に承認された通信規格の標準化を図るための規格。
OSIモデルは、通信に必要な処理機能を「物理」、「データリンク」、「ネットワーク」、「トランスポート」、「セッション」、「プレゼンテーション」、「アプリケーション」の７つの階層（レイヤー）に体系的にまとめられている。

RJ-45 Connector（アールジェイ45コネクタ）

ツイストペアケーブルを接続するコネクタで最も普及している形式。

TCP/IP（ティシーピー／アイピー）

(Transmission Control Protocol/Internet Protocol)。
Advanced Research Projects Agency(ARPA)によって開発されたプロトコル一式。主にネットワーク層プロトコル(IP)と、トランスポートプロトコル(TCP)を含む。

Traffic（トラフィック）

ネットワークの情報量を指す。

10BASE2（テンベースツー）

直径約5mmの同軸ケーブル（Thin Ethernetケーブル）を使用するEthernetのIEEE仕様。

10BASE5（テンベースファイブ）

直径約12mmの同軸ケーブル（Thick Ethernetケーブル/Yellowケーブル）を使用するEthernetのIEEE仕様。

10BASE-T（テンベースティ）

非シールドのより線を使用するEthernetのIEEE仕様。

非シールドツイストペア
UTP（Unseald Twist Pair）

電気妨害を減少させるため、２本１組で共にねじられている２組の絶縁されたワイヤー構成。

付録4 仕様

ここではパソコンの環境状況、およびLA-98シリーズの仕様について記述します。

付4.1 パソコン環境

「割り込みレベル」、「I/Oポートアドレス」、「DMAチャネル」がパソコン本体や他の拡張ボードと重複していると、パソコン本体が起動できなくなる場合があります。
この場合は、拡張ボードを全て取り外してから各拡張ボードの設定状態を確認し、重複しないように設定し直してください。
（LA-98シリーズは、パソコン本体に全ての拡張ボードを取り付け後、再度確認と設定を行う必要があります。【2.4 動作確認】(P15)を参照してください。）
また、各拡張ボードを使用する環境によっては、CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BAT、Windows上の環境設定ユーティリティで変更しなければならない場合があります。
（各拡張ボードのマニュアル参照）

・パソコン本体の割り込みレベルとDMA使用状況（一例）

パソコン本体		割り込みレベル(INT)									DMA チャネル			
		0	1	2	3	41	42	5	6	無し	#0	#1	#2	#3
マウス									●					
IDE 内蔵ハードディスク					●									
内蔵サウンド機能								◎						
内蔵フロッピィディスク I/F	640KB					△								△
	1MB/1.44MB						●						●	
TVチューナボード				●										
FAXモデム			●											
2nd CCU			◎											
赤外線通信機能			◎											

●出荷時設定（パソコン本体のマニュアルなどを参照してください。◎の部分は解放可能な場合があります。）

△解放可能（PC-9800シリーズのシステムセットアップメニューまたはディップスイッチで、フロッピィディスクモードを「１Ｍ」に固定｛SW3-1 ON,SW3-2 OFF｝すると解放されます。この場合でも 2DD(640KB/720KB) のディスクはアクセスできます。）

・各種ボードの割り込みレベルとDMA使用状況（一例）

拡張ボード	割り込みレベル(INT)									DMA チャネル			
	0	1	2	3	41	42	5	6	無し	#0	#1	#2	#3
LA-98シリーズ LANｱﾀﾞﾌﾟﾀﾎﾞｰﾄﾞ(本製品)	●	○	○				○	○					
SC-98IIIｼﾘｰｽﾞ	○	●	○	○						○			●
MPG-98　MPEG再生ボード	○	●	○		○								
GV-98 GV-98X　ビデオキャプチャーボード	○	○	●		○				○				
SB16/98　サウンドブラスター	○	●			○		○			○			●
	△				△		▲	△					
RSA-98シリーズ 高速RS-232C拡張ボード	●	○	○	○	○		○	○	○				
PC-9801-07/27 HD I/F				●						●			
PC-9801-26/K　サウンドボード	○				○	○	●	○					
PC-9801-73/86 サウンドボード	○				○		●	○					

●出荷時設定（▲YM2203用の出荷時設定[YM2203使用時のみ有効]）

○変更可能　（△YM2203用の変更可能設定[YM2203使用時のみ有効]）

・各種ボードのI/Oポートアドレス使用状況（一例）

拡張ボード	I/Oポートアドレス					備考
	xxD0h	xxD2h	xxD4h	xxD6h	xxD8h	
LA-98ｼﾘｰｽﾞ（本製品）	n0D0h 01D0h F1D0h	n0D2h 01D2h F1D2h	n0D4h 01D4h F1D4h	n0D6h 01D6h F1D6h	n0D8h 01D8h F1D8h	n=0h～Fh(占有)
SC-98IIIｼﾘｰｽﾞ						CC0h～CC7h(固定:非PnPﾓｰﾄﾞ時) (PnPﾓｰﾄﾞ時は、BIOSにて自動設定)
MPG-98	x5D0h					x=7 x=0h～Fh(設定可能)
GV-98 GV-98X				xAD6h		x=3 x=0h～Fh(設定可能)
GV-98SB	0xD0h		0xD4h		0xD8h	0xDCh(設定可能) x=7 x=4h～7h(設定可能)
SB16/98		nnD2h	nnD4h	nnD6h	nnD8h	nnDAh～nnDEh(2h単位で設定可能) nn=04h～07h,20h～2Fh, 30h～33h,80h,81h(占有)
GA-1024A/1280A	nnD0h		nnD4h		nnD8h	nnDCh～nnECh(4h単位で設定可能) nn=00h～1Fh(占有)
GA-DRVｼﾘｰｽﾞ						nnE8h～nnE9h 固定 nn=52h,56h,5Ah,5Eh(占有)
RSA-98ｼﾘｰｽﾞ	xxD0h～xxD7h, xxE0h～xxEFh					xxDAh(RSA-98Ⅱ/Sのみ使用) xx=50 xx=00h～FFh(設定可能)
INS-B64D	xxD0h		xxD4h		xxD8h	xx00h～xxFCh(4h単位で設定可能) xx=00 xx=00h～FFh(設定可能)

出荷時設定



注 意

1) 使用可能な割り込みレベルやDMAチャネルの数は限られています。
このため、拡張ボードを多く使用しようとすると、重複がさけられない場合があります。
この場合は、重複のさけられない拡張ボードと併用できません。それらのボードを必要に応じて使い分けてください。
また、I/Oポートアドレスの使用状況は、各拡張ボードのマニュアルを参照して確認してください。
2) Windows95やWindows3.1で使用する場合は、LA-98シリーズのI/Oポートアドレスで「x0D2h」を選択しないでください。

併用する拡張ボードの割り込みレベルがIRQで表記されている場合は、下表でINT表記との相対関係を確認してください。

INT 表記	INT 0	INT 1	INT 2	INT 3	INT41	INT42	INT 5	INT 6
IRQ 表記	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 9	IRQ10	IRQ11	IRQ12	IRQ13

付4.2 ハードウェア仕様

LANアダプタボード	LA2/T-98	LA/T-98	LA/T-98SB
LANコネクタ	RJ-45,BNC	RJ-45	
メディアタイプ	10BASE-T,10BASE2	10BASE-T	
伝送方法	Baseband方式		
トポロジ	Star/Bus	Star	
アクセス方法	CSMA/CD		
LEDインジケータ	Link(LK) Transmit(Tx) Receive(Rx)		
転送レート	10Mbps		
INT（割り込み）	0,1,2,5,6の中から選択		
I/Oポートアドレス	n0D0h～n0D8h 01D0h～01D8h F1D0h～F1D8h	**の間を2h単位で選択　n=0h～Fh(占有)**	
使用温度範囲	0℃～55℃（パソコンの動作する温度範囲であること）		
使用湿度範囲	10%～90%（結露しないこと。パソコンの動作する湿度範囲であること）		
消費電流(MAX)	UTP:+5V/120mA BNC:+5V/400mA	UTP:+5V/120mA	

PLANTコールセンターへのお問い合わせ

弊社PLANTコールセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo.
   (フロッピィディスクに貼ったVerシールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOS(NOS)とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■郵便

住所	〒101 東京都千代田区外神田1-15-16 秋葉原ラジオ会館7F 株式会社アイ・オー・データ機器 PLANTコールセンター「LA-98シリーズ」係　宛

■電話

電話番号	東京　03-5256-2010
受付時間	9:30～12:00　13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

■オンライン（パソコン通信）

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	http://www.iodata.co.jp/
IOS-NET	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ機器ﾌｫｰﾗﾑのサポートセンター
NIFTY-Serve	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)サポート会議室

IOS-NETのアクセスポイントや概要については「サポートソフトのバージョンアップ」をご覧ください。

LAN製品に関するお問い合わせはPLANTコールセンターのみで行っています。予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

■IOS−NET

アクセスポイント
東京　03-5295-6570　大阪　06-368-2291
金沢　0762-34-9811　VTX(*)　166-77100

『アイ・オー・データ機器フォーラム』→『サポートソフトライブラリ』を選び、必要なソフトや差分ファイルをダウンロードしてください。
(*)VTXのお申し込みと、VTXに対応した通信ソフトが必要です。VTXに関するお問い合わせは最寄りのNTT(0120-443322)へどうぞ。

IOS-NET概要

最大通信速度	33600bps		
通信手順	N81XN （ﾊﾟﾘﾃｨﾋﾞｯﾄなし,8bit DATA,ｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ1, X ON,ｼﾌﾄ制御なし）		
使用文字コード	シフトJIS	制限時間	30分
GUEST ID	GUEST	パスワード	なし

■その他のパソコン通信

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ　http://www.iodata.co.jp/　→「ｻﾎﾟｰﾄｿﾌﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘ」
NIFTY-Serve　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(IODATA)のﾗｲﾌﾞﾗﾘ9(LIB 9)

■バージョンアップ窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所　〒920 石川県金沢市桜田町2-4街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
「LA-98シリーズ」　バージョンアップ係　宛
電話番号　0762-63-7070
受付時間　9:30〜12:00 13:00〜17:00 月〜金曜日(祝祭日を除く)

ご注意

- パソコン通信によるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
- 添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。
- このサービスへのご質問は、弊社サポートセンターやバージョンアップ窓口ではお受けできません。

5ｲﾝﾁﾒﾃﾞｨｱへの交換ｻｰﾋﾞｽ

本製品は3.5インチメディアのみ同梱しています。5インチメディアをご希望の方は、当サービスをご利用ください。このサービスはNEC PC-9800シリーズ対応サポートソフトのみが対象です。ご購入後、1週間以内に送付してください。

■送付していただくもの

- 交換を希望する「フロッピィディスク」 ---------- １式
- 本製品添付の「Verシール」 ---------- １式
- 2ページ後の「交換サービス申し込み用紙」（コピー可） ---------- １枚

送付内容に不足しているものがあると、当サービスが受けられない場合があります。ご注意ください。

■送付先

住所　〒920 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
「LA-98シリーズ」　メディア交換サービス係　宛

■お問い合わせ先

受付窓口　バージョンアップ窓口
電話番号　0762-63-7070
受付時間　9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

ご注意

- 当交換サービスではサポートソフトウェアのバージョン変更は行いません。
- 送付された3.5インチディスクは返却されません。
- 紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。
- 勝手ながら、お客様よりの送付にかかる費用は、お客様でご負担願います。
- 弊社で受け付けした後、交換サービス品の発送までに日数がかかる場合があります。予めご了承ください。

1.25MBﾌｫｰﾏｯﾄへの交換ｻｰﾋﾞｽ

本製品では、一部のソフトウェアを 1.44MBフォーマットで提供しています。
1.25MBフォーマットをご希望の方は、当サービスをご利用ください。
交換後のメディアは PC-9800シリーズ用 3.5インチ 1.25MBフォーマットになります。ご購入後、1週間以内に送付してください。

■送付していただくもの

- 交換を希望する「フロッピィディスク」 ---------- １式
- 本製品添付の「Verシール」 ---------- １式
- 次ページの「交換サービス申し込み用紙」（コピー可） ---------- １枚

送付内容に不足しているものがあると、当サービスが受けられない場合があります。ご注意ください。

■送付先

住所　〒920 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
「LA-98シリーズ」　フォーマット交換サービス係　宛

■お問い合わせ先

受付窓口　バージョンアップ窓口
電話番号　0762-63-7070
受付時間　9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

ご注意

- 当交換サービスではサポートソフトウェアのバージョン変更は行いません。
- 送付された1.44MBフォーマットディスクは返却されません。
- 紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。
- 勝手ながら、お客様よりの送付にかかる費用は、お客様でご負担願います。
- 弊社で受け付けした後、交換サービス品の発送までに日数がかかる場合があります。予めご了承ください。
- 5インチメディア交換サービスと同時に申し込むことはできません。

交換ｻｰﾋﾞｽ申し込み用紙

下の申し込み用紙は、そのまま交換サービス品の返送先宛名ラベルとして使用されます。お届け先に間違いのないよう、正確にご記入ください。

記入例

申し込む方のボックスを塗りつぶしてください。5インチメディア交換サービスを申し込む場合は次のように塗りつぶします。
両方を同時に申し込むことはできません。

■〈5インチメディア交換サービス申し込み〉
□〈1.25MBフォーマット交換サービス申し込み〉

----------<キリトリ線>----------

□〈5インチメディア交換サービス申し込み〉
□〈1.25MBフォーマット交換サービス申し込み〉

お届け先住所	〒
お名前 法人使用の場合、 会社名部署名も ご記入ください。	

電話番号	
FAX番号	

修理について

弊社製品の修理については、以下の事項をご確認のうえ、販売店もしくは弊社サポートセンターへご依頼ください。

● 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

● 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『PLANTコールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。

● 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
◇保証書がない場合
◇保証書の所定事項が未記入の場合
◇電源ONで挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法による破損、故障の場合
◇落雷などの事故による破損の場合
◇本製品を改造した場合

● 保証期間後は有償で修理いたします。
製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

●修理品送付先

住所	〒920 石川県金沢市桜田町15街区7　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル 株式会社アイ・オー・データ機器 「LA-98シリーズ」　修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

LA-98シリーズ 取扱説明書
1998.Feb.02 E-03C
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町24街区1

© 1995-1998 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにＶｅｒシールをお貼りください

Ｖｅｒシール